◉振替貯金口座番號第壹壹參八壹番 ◉電話番町一二〇 一一五七四五番

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢六ヶ月 金六錢半年分參拾 六錢全國無遞送料

廣告料一行六十錢

本號全部[illegible]

東京麴町區（牛ヶ淵公園）發行所 愛國婦人發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 大久保高明

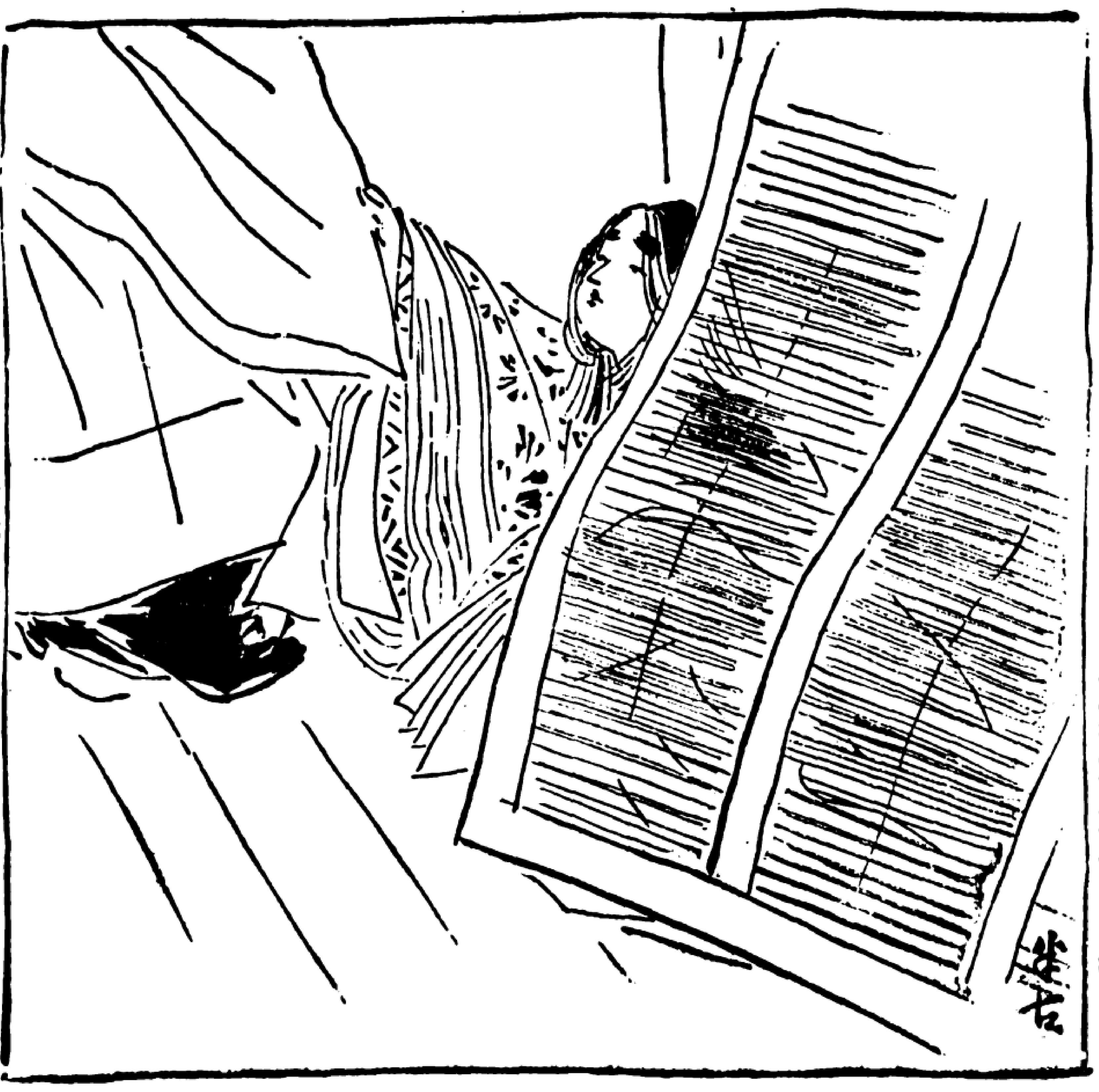
社說

六字の名號

婦人は、成長すれば結婚し、よく舅姑に仕へ、夫の世話をなし、また家政を巧みに治めざるべからず。これを良妻といふ。又その生める子女は、よく育て、敎へ導きて、天晴れの者となさゞるべからず。これを賢母といふ。良妻賢母は、婦人の天職にして、苟も婦人たる以上は、乾度それになるやう心懸けざるべからずと、小い時から、娘は、親より、學校の先生より、何度となく言ひ聽かされて、眞底から頭に浸み込み、必ずなつて見せる氣で居るは、誠に感心にして、結構なる事といふべし。

然るに、こゝに遺憾なるは、婦人の天職は、良妻賢母にて盡きたり、それより外にはある筈なしと、一般に思はれ、名士大家といはるゝ人々の言說にも、嘗てその外の要求をせず、世間に幾らもありながら、それに氣付かぬにやと如何にももどかしく思はるゝことあり。良妻賢母が、婦人の天職ならば、それも當然天職にて、毫も輕重あるべからず。何故良妻賢母のみ、やかましくいひて、それを言はぬにやと、不思議に思はるゝことあり。近頃は、婦人の社會的活動といふこと唱へらるれば、乾度それなるべしと思ふ人あらん、成程それも結構にて、望ましき事なれども、その事にはあらず、なほ一層結構にして、根本的なる要求あるなり。しからば、餘り當り前にて分り切つたることなれば、一般に言はれざるにやと思へば、その割りには出來て居らぬやうなり。一體それは何かといふに、外にもあらず、慈姑といふこと、即ちこれなり。

慈姑とは、讀んで字の如く、慈しみ深く、同情厚き姑の謂なり。詳しく言へば、萬事好意を以て嫁に對し、其足らざる所は、なほ年若き故なりと恕して、深切に敎へ導き、その良き所は、喜びの樣を見せて勵みを與へ、實に難有く立派なる方なり。自分も姑とならば、斯る方となりたしと、嫁に思はしめ、又自らと妻との間に立てる子をして、安き思ひをなさしめ、家庭に風波なく、靄々たる和氣の何時も堂に滿てるやう仕向くる婦人をば、慈姑とはいふなり。而して婦人が結婚するも、必ずしも良妻賢母となれざるが如く、年を取りたりとて、慈姑となるには限らざるに、一方ばかりはやかましくいひて、他方は忘れたるが如くなるぞ、不思議なる。畢竟東洋流の目下の者ばかりには、勝手に注文をつけて、長者は如何なる事も仕放題にて、苦情のいへぬものとなり居るに因ることか。姑と嫁との不和、睨み合ひより、延いて一家の騷動となることは、小說によくあるのみならず、また實際によくあることにして、貧富を論ぜず、それが精神上互に幾許の苦痛を與へ、多くの國民の元氣を消耗しつゝあるかを思へば、姑の良否は、一家一國の大問題にして、決して等閑に附すべきものにあらず。婦人として良妻賢母となることが必要ならば、同じ度合にて、慈姑となることも必要なり。良妻賢母にては、未だ婦人は完からず、加ふるに慈姑となりてこそ、有終の美を濟すものにして、始めて完全なる婦人とはいふべきなれ。されば、家庭及び學校に於て、女子の道を說くには、良妻賢母のみに止めず、その次には必ず慈姑たるべき事を說きて、その大切なることを、十分納得せしむべく、又現に姑たるもの、若くは姑たらんとするものも、良妻賢母の坂を越えたれば、最早安心なり、これからは、自分の勝手自儘に振舞はねば、若い時いぢめられたる埋め合せつかずなど、間違へる料簡を起こさず、良妻賢母の四字の代りに、自今婦人は、若きと老いたるとを問はず、「良妻賢母慈姑」の六字の名號を、口癖に唱へて乾度それになるやう心懸くべき所のものなり。



小式部內侍

快活と成功

愛國婦人會評議員　山脇房子

顏色、容姿、動作の如何にも愉快らしく活々したるは何人にも必要ですが、殊に女子は娘として兩親に事ふるにも、妻として夫に接するにも、母親となりて子女を養育するにも、其他何人に對するにも、此心掛が大切です。然るに若し此心掛なきときは、少し頭痛がするとて、頭を抑へて終日むつかしい顏をして居り、心配事起りたりとて、夜も晝も其事を思煩うて鬱ぎ込み、又何事か腹立つことのありとて、面を赤らめ、眉を逆立てゝ怒つて居ると云ふ樣な人は、年中不愉快な顏をして居りますから、人には鬱陶しがられ嫌はれて、何事も成就せず、終に一生を不快不滿に送らなければなりませぬ。之に反して、顏色常に麗はしく、擧止壯快に晴々したる人は、先づ打向ふ人をして愉快の念を起させます。かゝる人は、人には喜ばれ、事業は成功すると云ふ次第で、極めて幸福に滿足を以て一生を送ることが出來ます。キリヤム、ハツトンと申す有名な數學者の許へ或日風姿は然程賤しくありませぬが、至つて陰氣さうな一婦人が訪ね來て申しますに「私の夫は私に對して常々不信實で日々內を外に遊びあるいてばかり居りまして、行末誠に心配に堪へませぬ。なにとぞ夫をよくする方法を授けて頂きたう御在います。」と淚ながらに願ひました、ハツトン先生は其樣子をつくづく見て居られましたが、之に答へて『何時も笑面であしらひなさい。』と簡單に申されました。婦人はあまりのやさしき處方に其效能を疑ひつゝ、なほ何事か覺りたるもの丶如き樣をして歸り行きました。其後三ヶ月程經て、其婦人は數々の謝品を持ちいそ〱として參つて申しますには、御蔭樣で夫が此頃は大層よくなりまして、夜遊びもせず、何時も私を深切に愛してくれる樣になりまして、誠に嬉しうぞんじますと、禮に參つたと申すとは、名高い話ださうです。

また佛國の文豪ヴィクトル、ユーゴーといふ人の言に「世に愛嬌程大切なる働はなし。谷間の森も歌ふ鳥なくば物足らず、愛嬌に富める女子、一家の內にあらば、隅々迄明煌々たる心地して、恰も春風に對するが如く、得も言はぬ幸福を感ず。人は皆重き鎖を後に曳きつゝ此世を渡るに、かゝる神々しき婦人の擧止は、不思議にも其鐵鎖を輕くす」といふのが有ます。人生兎角不如意のことが多う在います、けれども、其都度不快不滿な樣を顏色に表はしたりとて、益することとなきのみならず、却て自他共に不快を感ずる計りです、されば、完全なる品性を養成せんと志す女子は先此快活と云ふ事を心掛くるのが大切です。何時も快活にして、元氣よき人は、歸する所成功の人で在います。

◎本號には評議員小笠原貞子、珍田岩子、東京支部幹事加茂秀子三氏の肖像を寫眞附錄とす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

我同盟國に於ける所感(承前)

教育勅語に對する英國人の感動――英國文部省教育勅語英譯を國中の視學官に配布す――國難に際して英國人の擧國不一致

理學博士男爵　菊池大麓

此度私が英吉利へ參つて勅語の講演をしました。其起因から御話をしませう。今度の私の講演は、マーチンホワイトと云ふ人、此人は實業家で、尤も今は實業に從事はして居りませぬやうてすが、此人は非常に社會學研究に熱心て、それて倫敦大學に社會學研究の爲に寄附金を出して、倫敦大學ても常に其金を以て社會學上の講演等を開くことにして居るのです、それて今度の日露戰爭に於て、日本人の忠君愛國の念が、世界に傳はつた所からして、畢竟日本人の此精神を奬勵する教育と云ふやうなことを研究したらば宜からう、就ては日本から相當の人を招いて、さうして其人に日本教育に就ての心得を聽くといふことになつて、當時の駐英大使、今度伯爵になられた林大使に依頼して、それから日本の外務省を經て文部省へ照會があつて、時の文部大臣久保田君は、柳澤君を勸めて同君が行くことになつた、處が內閣の更迭て柳澤君は出發をした途中呼返されて、倫敦へ着くと間もなく、別に講演もしないて引返して來た、それて更に誰か人を出さなければならぬと云ふので、林外務大臣が非常に苦心をされて、私に、君は日本に別に用がないから、行つてやつて吳れと云ふ林外務大臣、牧野文部大臣の勸めに依て出張することになつた、さう云ふ譯てありますから。教育のことを話をするとしても、多少社會學的の研究の材料になると云ふこと、即ち日本の忠君愛國の精神の養成と云ふ事を說明するやうなものでなければならぬのですから、第一に今日日本の教育の土臺は即ち教育勅語てある、此教育勅語と云ふものを中心として說明をするより外はないと云ふことを考へましたから、教育勅語の英譯を先づ第一にしなければならぬと云ふことて、色々求めましたがどうも良い翻譯がない、それから寧ろ進んて新らしい翻譯を作つて、さうして牧野文部大臣に相談をして、更に其方に堪能なる者を集めて貰つて、終に一の稍完全なる翻譯が出來上りましたから、之を持つて英吉利へ行きました。之れから講演をすることになつて、其講演は二通りに分けて、一の方は日本の教育制度、教育行政の方の事を說明し、一は日本に於ける教育は實際今日どう云ふ學科をどう云ふ風に教へて居るかと云ふことを說明する。それて二月の十四日と覺えて居ります、倫敦大學の本部に附屬して居る大講堂に於て發會の講演をするやうにした、是は全體を統括して其趣意を說明するやうな風のものてあるので、詰り其時の主意は教育勅語と云ふもの丶精神並に教育の及ぼす所の影響と云ふやうな風のことを說明し、其他總ての上に於て日本人の此忠君愛國の念を養成されて來た所の來歷、及び今日それに就て行つて居る所の方法等を精して說明した。此教育勅語に就ては、非常に英人に感覺を與へたので、實に是は最も壯嚴なる、貴重なるものであると云ふ、非常に尊敬を得て、英吉利の文部省は之を印刷して視學官に配布すると云ふやうなことに決定した。既に其印刷物も出來上りました。

此英吉利人が此に感ずる理由があるのて、それは段々英吉利人と話をして見ると、其理由が分つて來たのですが、英吉利人は丁度四五年前南阿の戰爭て非常に苦しんて、其當時に於ても、却々擧國一致といふ譯にいかない、現に英吉利にコールボアー黨と云ふものがあつて、大に英吉利の敵なるボアーの方の加勢をし、英國政府の處置を攻擊する、是がさう多數てはないけれども、隨分有力なものてあつた、それてあるから、識者は大にそれに苦しんて居つた、處が其後間もなく日露の戰爭に於ては、日本國民一般に擧國一致て國家に盡して、出征軍人などの生命を犧牲に供し、又出征しない者も財產を拋つて、或は勞力を以て國家の爲め盡すと云ふやうなことになつて、日本一般の國民の精神が國家に厚い所を大に感じた所てありますから、丁度自分の苦しんて居た跡に、是が起つたからして、其感覺と云ふものが強かつたに違ひない、況や其當時の英吉利の倫敦府會の多數は、所謂反對黨てあつて、即ちボアーに近いものて、其倫敦の小學校などに於て、國旗を揭げることを許さなかつたと云ふ有樣てある、日本人から考へると、小學校に於て國旗を揭げることを許さぬなど丶云ふことは、殆ど想像の出來ぬやうなことてある。

それから丁度私の滯英中てありましたが、選擧改選があつて、其方の黨は非常に少數になつた、即ち反動が來たのです、そして終に其黨の反對黨が府會に多數を占めるやうになつて、國家と云ふものに重きを措いて、無論小學校て國旗を揭げることは出來ぬと云ふやうなことはなくなつたのてある。丁度其時に當つてデーリーテレグラフと云ふ新聞紙が義捐金を募つて、倫敦の小學校に國旗を寄附すると云ふことにした、どうも日本人の考を以て見ると、小學校に國旗を立てるのを、新聞社てもつて義捐金を募つて漸く出來ると云ふやうなことは、餘程不思議に思ふ位のことてありますけれども、さう云ふやうな有樣てあつた。尤も是は倫敦てあつて、他てはさう云ふ事はなかつた。

さう云ふ風な一時の傾きがあつたものてすからして、識者は隨分憂へて、大に日本の忠君愛國の精神と云ふものには非常に感じた、それが爲に丁度私の講演の主旨が、全く英國前々からの精神とは反對の譯てすから、非常に英國人の感じが強かつたらうと思はれます。近頃は英人も大にそれを感じて、學校などに於ても此精神を養成しなければならぬと云ふ念が盛になつて、さうして私などが中學校などを見に行くと、どうぞ是非學生を集めて演說をして、日本の忠君愛國の熱心なことを話して吳れろと云ふことを到る處で求められたが、教育家は特に此事に就ては注意して居るやうてあります。けれども矢張反對もないてはないが、餘程此忠君愛國と云ふ事に就ては、耳を傾けて居るやうてある、まだ御話をすればあるが、先づ勅語に就ては此位にして置きませう。(未完)

婦人の同情に就いて

東京美術學校長　正木直彦

女子の同情に富めるとは、あらゆる女子の美德中にて、最も尊ぶべきものてあると思ふ。同情といへば、同じ人類に對する同情を普通に意味するものてあるけれども、人類に限らず、動物、植物、鑛物と云ふ自然界の天然物に對しても、一種の同情として、情合の存在を認めるのてある。而して婦人は最も濃なる同情を有する者にして、是は其天性なりと云ふても可しいと思ふ。されば女子の女子たる最も尊ぶべき其神髓とも見るべきものは、同情に富むとてあると信ずる。

さて此同情の起と云ふものは、其對する物を理解するより起るのてある、猶ほ言を換へて云へば、同情は被同情物其ものを知るより起るのである、人に對しての同情といふものは特別に人を研究して初めて起るといふとを認めないけれども、是は申すまでもなく、生れおちるとよりして以來、人との關係といふものが繼續して居るので、知らず〳〵の中に人を研究するとになるのてある。玆に被同情物を知らねば、同情は起らぬといふ一例を擧げて見ませう。先頃開設された東京勸業博覽會の正門を這入られた方にして、噴水器の上に屹立せる半裸體像を見られぬ方はありますまい。此像は有名なる希臘のハックスといふ男神てある、此神は一方の手に葡萄を持ち、一方の手に敷布をさゝへて居つた。此神は春を好み夏を愛し冬を嫌ふ神てある。又產業の神とも云ひ酒の神とも云ひ、又劇の神とも尊んて居るのてある。此譯を知つて彼像を見ると、甚大なる敬神の觀念を惹起すとなれども、唯單によき像てあると云ふたばかりにて觀たのでは、何等の趣味も觀念も心に浮ばすとが出來ないのてある。諺に猫に小判といふとがあるが、實に斯樣な場合に適中する。

今、動植物地理歷史又は審美學史などの研究を經たる教育ある人は、それらの研究を積まざる比較的無教育の者よりは、より多くの動植物を始め諸事物の上に起こらなければならないのてある、單に一つの物に深かく委はしくならんよりは、普遍的の修養は普通女子にとりては必要な知識てあると思ふ。萬般の物に通じて、健全なる常識を修養し得たならば、自然同情にも富んてくる理合てある。

現代の教師たり母たる人々は、子女の幼少の頃より、常識に富ましめんとを心がけ、實に物事を知るの結果たる此同情慈愛といふものは、婦人に取つて生命とも云ふべき大切なとてあるといふ點に着眼しなければなるまいと思ふ。

現今我國に於ては、貴婦人方が段々と慈善事業に心を向けられ、力を竭されるとは、誠に結構な事て、今や我國が第一等國の地位に進んて來た名譽を實にするものとして、欣喜に堪へない譯てあるが、猶此上に願ふ所は、御自身が慈善事業に心を用ゐらる丶と同時に尙ほ進んて、將來第二の貴婦人たるべき女兒達に、廣き常識を有せしめんとを心がけられて、遂には歐米諸國に超越するまでに、同情慈善の事業を隆盛ならしめられんと切望に堪へない次第てあります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歐米婦人觀一斑（承前）

米國新聞婦人記者との問答（其二）

山本大將副官 海軍中佐 加藤寛治

殿下が御出發になつてから、アト山本大將其他の者は、伯林に往つて獨逸皇帝陛下にも拜謁して、それから、キール軍港やら有名なクルップの兵器製造所などを見ました、このクルップは先代クルップの娘の聟さんで、皇帝陛下の御世話で養子に來たのである、併し先代クルップの名を繼いで、立派な城に入つて、誠に華美を盡した住居に居るのですが、其處へ大將首め吾々ども〻呼ばれまして、一夕晩餐を共にしたことがある。其時に獨逸の所謂貴婦人と云ふ人、是は皇室の方に關係したのではないけれども、マア上流の獨逸婦人を見たと云ふのは其時で、併し其時は丁度當代のクルップ夫人、即ち先代のクルップの娘ですナ、其夫人が姙娠中であつたものですから、餘ほどからだを愼んで居つた爲に、取分けたお話もありませぬでしたが、さう云ふ風に身を顧ず特に宴會の席に列して、大將を歡迎したと云ふやうなことをチヨツト話に附加へて置きませう。

それから伯林から歸りまして、又一週間ばかり英吉利に居つて今度米國に渡つたのです。米國では非常に旅行を急いだものですから、僅か一週間ばかりしか居りませぬ。殊に米國では全く婦人に接する機會が無かつたので、婦人の話は出來ませぬが、玆に一つ面白いお話がありますのは、丁度紐育に着きましてホルランドハウスと云ふホテルに泊つて居つた時に、其頃向うでは日米開戰論が中々やかましかつた時分で、幸に山本大將が來られて、日本は平和より外に何も他意無しと云ふことを盛に辯明せられた爲に、漸く戰爭の評判も鎭つて誠に愉快でありましたが、さう云ふ好い結果を大將が示された爲に、新聞記者の訪問に忙殺せられたと云ふやうな譯であつたですが、其時に、或日のこと、婦人の新聞記者がやつて來た、さうして、最初山本大將に面會を求めたのですが、大將から私に面會しろと云ふことを言はれたものですから、其新聞記者が私の部屋に來て、實は今日お話を伺ひに來たのは、あなた方にお答の出來ないやうな話を伺ひに來たのではないと云ふ防禦線を先に張つてやつて來た。私のお尋ねするのは外交とか何とか云ふむづかしい話ではなくして、何誰でも答の出來ることであるから、是非山本大將から話を聽かなければならぬことであるけれども、あなたが代つてお答になると云ふことならば、お尋ねすると云ふことで、其婦人の態度と云ひ、もの〻言ひ方と云ひ、私も豫め亞米利加の婦人は中々男勝りて、誠に吾々も三舍を避けると云ふことを聞いて居つたのですが、此新聞社員の樣子は、男の新聞社員より、猛烈な勢ひで、殆ど命令的にやつて來られたので、實は驚いたてす。併しさう云ふ話でありますから、それならば貴女のお尋ねになることは何ですかと言うて聽いた所が、前にもお話しした通り私のお尋ねする所は外交のやうな話ではない、日露戰爭以來日本の事物は隨分能く知れ渡つて居るが、それは軍事やら外交やらの話ばかりであつて、婦人と云ふことに就ては、少しも話が知られて居らない、日本の婦人と云ふものは如何なる思想を有つて居らる〻のか、如何なる狀態で居らる〻のか、少しも分らぬから、其話を伺ひたいと云ふ質問であります。是には驚いた。元來日本に於てもさう云ふ極デリケートの婦人觀など〻云ふことには頓着しないのですから、是は私の商賣違ひてお答が出來ないと言はうとしたのてすが、絕對的に知らぬとも言へないから、斯う云ふ返辭をした。さう云ふ日本の婦人觀と云ふ如き大きな問題では餘ほど是はむづかしい、實は私も無責任な答をして新聞に出された日には日本の婦人からどんなお叱言を戴くか知れぬと云ふ心配があるから、是は即答しない方が宜いと思つて、それでは日本の婦人と云ふ者を細別した問題を作つて貰ひたい、それをお答することにしやうと云ふことにして、先生に書かせた所が斯う云ふ問題てした。第一問は日本の婦人は今戰爭と云ふことに就てどう云ふ考を有て居るか、從つて日本の婦人は平和を得ることに熱注して居るかどうか。第二問は日本の婦人は公共事業に力を盡して居るか。第三問は日本の婦人に政治に携はつて居る者があるか。其次がむづかしい問題です、所謂理想の日本婦人と云ふものはどう云う者であるかと云ふのです。それで私は第一の問に對しては斯う言つたです。第一問題は是は一番譯はない、彼の日露戰爭に大勝利を得た大なる原因として歐洲の新聞に書かれた通り、日本が勝利を得たのは家庭を守る所の婦人の力である。即ち日本の軍人の母たり妻たり姉妹たる所の婦人が、夫、親子、兄弟の出征の際に當つても、一滴の涙も示さず、先づ無事に命を全うして歸つて貰ひたいと云ふよりは、國家の爲に、潔く身命を捧げて、名譽を我家に齎らして貰ひたいと云ふことを言ふ。是等は誰しも人情として我が夫、親子、兄弟の無事ならむことを祈らぬ者はないけれども、國家の爲に其人情を犠牲にして、今のやうな勇しい言を吐く所は他の國の婦人には言へないことである。是は如何にして斯う云ふ言葉が出ると云ふことを隨分研究して書いた外國の新聞があつた、それをあなた方が誤解して想像されると、日本の婦人と云ふものは戰爭の爲に愛情も何も無くなつて、誠に冷酷なものであると云ふやうな感念からして、日本の婦人は寧ろ戰爭好きだと云ふやうに誤解されたからさう云ふ質問が出るのではないかと思ふ。日本の婦人にしても、西洋の婦人にしても、人情は少しも違つたことはないのであるから、戰爭を好んで平和を愛せぬと云ふ者は一人も無いだらうと思ふ。此質問に對しては分り切つたことであつて、誰一人も我が國家の爲め我が家の爲に平和の繼續することを望まぬ者はない。併しながら日本の婦人は一たび國家が止むを得ず戰爭をすると云ふやうな場合には、我が愛情を捨て〻夫、親子、兄弟が國家の爲に身命を捧げることを希望すると云ふ答でした。

それからアトの公共事業のことなどは早速愛國婦人會とか、赤十字社の篤志事業のことなどを話しまして、是等は日本にお出てになれば早速分る、殊に戰爭前から戰爭後にかけて非常に發達しまして、今ではあなたの國に對しても遜色なきまでになつて居る。それて最も好いことは大部分が幸に婦人だけの力で成立つて居ることで、大きな會を組織するには、多少男も使はれるだらうけれども、其活動する根本の力は婦人から出て居るものが近頃追々現はれて來たのは、吾々どもが男子として婦人に對して祝して居る譯であると云ふことを言つた。

（未完）

日本女子の美術教育（承前）

日本女子美術學校監督 小山正太郎

又技藝部なるものを設けて、繪畫を實際工業に應用するの機關を立てました、即ち陶器に畫くとか刺繡の下畫を畫くとか、凡て實物に付き兼ての修技を練磨さする途を設け、其修業年限の如き、全期三年とし、其二年を繪畫に充て後一年を實物教授に充つる樣に致しました。其所て此技藝部を立てた理由は大いに社會の生産力を増進せしむると云ふ大なる希望があるのであります。現下東京市中に居住せる中流以下の女子にして坐食して何等生産せざる者は、其數極めて多大であります、又現代男子の職業中之を婦人に行はせて宜き職業が幾何もあります、一例を上げますれば、人形の顔を畫くとか又は紋所の上繪を畫くとか云ふとは、單に精巧なる手藝を要するの外、頭腦を働かせると云ふとは更になきが故に、此種の職業は、之を女子に讓りて、男子は之より以上の生産に勞力を費すのが、國利民福を増進する上に於て、尤も有用のとであると思ふのです。然るに現代の女子にしては遺憾ながら之を讓ると出來ない、即ち今日までに此種の手藝を實地に活用し得さする機關がなかつた結果である故に、現下の東京市は僅かの樣でありますけれども、幾分かの生産力發達を阻害されつ〻あつたのであります。地方にある女子は決して安閑として坐食して居る者は稀であります、漁村に至れば夫婦共同して漁業に從事し、農村に至れば夫妻相携へて耕耘に勞力を相捧げつ〻あるのに、單り東京市にありて、然も婦人の手藝を要する幾多の生産を得る所ありながら、之を爲さずして坐食する者の多きに至るのは、畢竟機關の完全たらざりしに外ならないのであります。如斯不利を除去せんが爲に、實は技藝部を起したる所以て、即ち將來は中流以下の婦人にして、從來男子の行ひつ〻ある價なき職業を女子之に代りて之を爲し其男子をして他の有要なる生産に從事さするの地盤を作りたい希望があるのです。

繪畫が如何に生産力を增進するかの現象は豫想の外で、佛國の或る村落で特に繪畫に就いて緻密なる教育を施したる結果、旬年を出ずして其繪畫によつて一人平均金八錢宛の生産力を增進せしめたと云ふ報告のありましたのを見たとがあります。之に依るも、現代東京市に居る人士殊に中流以下の婦人に於て之を修むると修めざるとは、其生産力の消長如何に關係するとが夥しいものであると信じます。

（終）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

母たる人々に警告す
（小兒の急性下痢に就きて）

醫學士　河野衛

毎年夏期に至ると、小兒に急性の下痢が流行して、其下痢には中々性質の悪いものが多く、又容易に悪性のものに變りやすく、殊に本年のやうに、性質の甚しく悪いのを見たのは始めてゞあります。それて此性質の悪い下痢症とはドンナものであるか先づ其

下痢に罹つた小兒の狀態

から御話し致しませう。此症に罹つた小兒は、先づ第一に突然急劇に非常な高熱を起しまして、三十九度から四十度或は四十度五分といふ高い熱を發します、此時小兒は多く精神が朦朧として、譫言を發し、全く物事を辨知しなくなり、非常に苦しんで輾々反側してもがきます。それから或は嘔吐を催し、食つた物は勿論の事、甚しきに至りますと膽汁をも吐出致します。尤も時としては少しも嘔吐の起らない場合もあります。それから下痢が起る。尤も此下痢は然程に回數が多くありませぬ、場合に依つては、下痢の無い事もあります、併しながら此時醫師が腸の中を洗つて見ますと、非常に悪臭のある不消化の大便が出まして、其中には食つた食物の殘片等が不消化の儘で雜つて居ります、それから其大便は粘液と謂つて丁度鼻汁を見たやうなものが雜つて居るてす。都合の善い時には腸を洗滌したが爲めに直に熱も下つて段々と回復致しますけれども、多くは中々熱も下らず、其間に心臟が麻痺して、口唇の色が紫色に變じ、痙攣を起し、症狀愈重りまして、早きは半日から二十四時間の内に死んで了ひます、どうも斯う言ふやうなものに出逢ふと専門の醫師すら戰慄する程に恐しいのであります。

早く始めに嘔吐を發するのは、食べた不消化な品物が胃に働いて、胃を刺戟しますから、悪いものは皆ンナ吐き出して了ひますけれ共、腸の方に進んで始めて其毒が働く、嘔吐を起さずして下痢を發します、或は下痢を發せずに悪い不消化のものが茲に滞留しまして、毒を遺るのであります。それて斯ういふ場合には吾吾は常に腸の中を洗うて、成るべく早く、腐敗した腸の内容物を洗ひ出しまして、毒が身體に吸收せられないやうに勉めるのであります。

然らば此下痢症に罹る小兒の年齢

はどうであるかと言ふに、多くは三歳から六七歳の稍や成長した小兒が多く侵されます、殊に注意しなければならぬのは、平素全く健康な發育の佳良な小兒に多いのであります。今迄は全く健康でピンピンして遊んで居たものが、突然と高熱を發して、上に述べましたやうな狀況に陥るのでありますから、餘程警戒しなければなりませぬ。日常吾々の最も危險と思つてゐましたのは哺乳兒から二歳迄の小兒に發する急性の下痢でありましたけれども、今度のは成長した小兒に多いのであります。それから斯う言ふ下痢症の

原因

に就いて少しく申し述べますると、原因は主に不消化物の過食てあります、例へば葡萄であるとか、梨であるとか、或は氷水を澤山飲んだとか、悪い餡の入つた菓子てあるとか、或は鰻飯てあるとか、さういふやうな物を過食して起るのが多い。そこて吾々が斯ういふ下痢症の小兒に出逢ふた場合に、原因を尋ねて見ても、一向分らぬ事が多い。それは小兒が稍や成長して居りますから、他所で色々の物を食べたり、或は人に知れぬやうに食する事がある、それて家人は何も別に腹を痛めるやうな物を食はせた覺えの無いのに急に熱を發し、嘔吐、下痢を催すのでありますから、一方ならず驚くのであります。殊に氣を附けなくてならぬのは、不斷虚弱な小兒であると、此兒は弱いからといふので、親達は常に大事を取つて、注意して居りますけれども、丈夫な兒になると、丈夫であるから滅多に病には罹らぬと信じて油斷をして、色々な物を食べても一向頓着せず、放任して居るといふ風になり易いものであります、此度の下痢症も健康であつた小兒に多い所を以て見ると、大に此邊に關係して居るのではあるまいかと思はれるのであります。

それから此病の急劇である事を、今少しく御話し申しませう、例へば、今日の午後に悪い物を食つたとすると、其晩には、非常な高熱を發し、痙攣を起し、譫言を言ふやうになります、或は今日原因になるやうな物を食つたとすると、翌日の晩方あたりに高熱を發するのがあります。それて原因が働いてから急に早く熱の出るもの程性質が悪しく、遅く症狀の顯はれるものはいくらか性質が宜しいやうであります。

豫防法

そこて斯う言ふ恐しい下痢症に罹らないやうにするには如何にしたら宜しいかと申しますと、食物に嚴重なる注意を拂はなくてはなりませぬ。親の情として、小兒が欲しがると悪いとは知りながらも色色な物を與へたいものでありますけれども、若し不幸にして、間違つたら、一命に關するといふ考へを以て此際是非とも不消化物や菓子果物類を嚴禁しなければなりませぬ。是れは呉々も母たる人々の注意を願いたいのであります。殊に是れからは追々と冷氣に向ふ時節でありまして、柿なども出て參りますから、一層深く注意しなければ取り返しの附かぬ不幸に陥る事があります。食物の外に尚注意を要する事は、寢冷をして、風邪に罹らないやうに腹卷杯をしてやつて常に大事を取らなければなりませぬ。獨り下痢に限らぬ、氣候の變り目には色々な病の起るものでありますから、此邊にも十分の注意を願ひたいのであります。

それから此病が不幸にして一家に起つたとすると、他の健康な小兒も亦同様な病に侵される事が多くありますから、傳染病と同じやうに特に消毒を嚴行しなければなりませぬ。一人の小兒が此病で死ぬるやうな事があると、其騒て消毒などの事も行はれずに居る間に、又他の健康な同胞が之に侵されるやうては、實に悲惨な次第でありますから、此消毒といふ事を怠つてはなりませぬ。

それて先づ大略此下痢症の恐ろしい事を御話し致しましたが、要するに、此時季には、殊に食物に嚴重な注意を拂ひ、不幸にして、少しても小兒の擧動様子に平素と異つた所を見たら、一刻も猶豫せずに、直に醫師の手當を受けなければなりませぬ。

育兒のしをり

ドクトル メヂチーネ　長井岩雄

五官器の保護

（十）鼻の攝養

乳兒は主もに鼻にて呼吸を營むがゆゑに若し鼻腔に故障あれば非常に苦惱を感ずるものなり、殊に嬰兒に於ては尚更然りとす、されば鼻呼吸は小兒の生理上尤も大切なることと兼て慈母の心得置くべきことなり。然るに生後數月は佳き香を嗅ぐも亦あしき香を嗅ぐも格別快不快を感ぜざれども、しかし悪臭及強き刺戟性臭氣は大人よりも忌むがゆゑに勿論避けざる可らず、是れ嗅神經、強き刺戟を受くる時は、腦に感じて反射性痙攣等を起すの恐れあればなり。さて小兒の鼻の病氣中尤も屢々來るものは鼻加答兒なり、殊に乳兒に於て然りとす、是れ小兒は皮膚も粘膜も薄弱なるがゆゑに外氣に耐抗するの力弱く從ツて感冒に罹り易き所以なり。

通例小兒を外出せしむるには多く背に負ひ外衣を以て纏ふが故に身體は襁褓と小兒との體温にてなかなか温まるも、顔は直接外氣に觸れ、殊に寒中杯は尚更寒風に吹かるるがゆゑに鼻寒冒に罹るの誘因となるなり。

抑々小兒殊に乳兒の鼻加答兒は、大人と異り、所謂鼻風として輕視すべからず、こは上に述べたる如く小兒は何時も鼻にて呼吸するが故に若し鼻加答兒にて鼻腔閉塞るときは呼吸に差支へ哺乳困難となるものなり。又鼻加答兒漸々後方に蔓延して、咽喉加答兒となり、或は氣管支加答兒に變ずるは決して珍らしからず。又「ヂフテリー」性の鼻加答兒は鼻より發して後方咽頭に蔓延し、或は咽頭の「ヂフテリー」鼻腔に蔓延することあり。兎も角危險なるが故に單純の鼻加答兒と「ヂフテリー」性鼻加答兒との區別は治療手當の上に於て頗る緊要なり、甲は熱低く乙は熱稍高きのみならず、多くは鼻液汚穢く黄色にして屢々血液を混ずるを常とす。然れども又斯く判然たる症狀を呈せざる事あれば、何時も小兒の鼻加答兒は注意せざる可らず。若し再三鼻加答兒を起す時は遂に習慣性となり、其鼻粘膜肥厚し、所謂鼻加答兒性喘息或は痙攣などを誘發する事少なからず。さらば如何にして鼻の病氣を豫防するか。想ふに日常の攝生に注意するより外道なし、即ち寒冒を防ぐには只外氣が顔のみに當らぬやう注意し、又強き風雨の日はなるべく外出せしめざるを良とす。其他尤も注意すべきは寒中小兒を炬燵に寐かす事なり、炬燵といふものは足部と身體とは温まるも顔面は何時も冷氣に觸れ小兒が睡眠する間に鼻腔乾燥き、いつの間にか寒冒に罹るなり。さればなるべく子供を炬燵に寐かすべからず。若し止むを得ざるときは火を弱くすることを忘る可らず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

鬼火

堀内新泉

一

上州地方の或る村に、山の井さまと土地で呼ぶ舊家があつた。

山の井さまは、その地方で名高い舊家であると共に、また名高い資産家であつた。

先代の山の井さまの先妻には子が授からず、旅者の妾腹に男の兒が生れたので、本妻はそれを我が子として、繈の上から大切に育てあげた。

その子即ち當主の孝太郎さまこそ幸福なれ、そんな舊家の、そんな資産家に、天にも地にも唯一人子として生れ合せたので、幼い時から一家の愛は我が身一ッに集まつて居た。

加ふるに當主は聰明なる天性、その上土地で評判の美男！

「まあ、眞個にお幸福な仁だ、前生で餘程善い種をお蒔成すつたものだと見える」と云つて、有らゆる人に羨まれて居た。

はや最うお嫁を貰ふ年頃になると、名家ではあり、資産には富み、その上美男と來て居るので、嫁の候補者は續々頻々、求めずして諸方から、何れも落第させたく無いやうなのばかりが、然るべき人を以て申し込んで來るもの日には幾人。

その中で選拔つて、「おやアこれに爲やう」と云ふことに成つたのは、スグ隣村の、これも山の井さまと肩を比べる程の歷々、小宮某の長女でお里さまと云ふ、今が花盛の美而艶娘であつた。

いよ〳〵それと定まつて、はや中祝儀の交換まで滯りなく相濟に成り、何時何日が輿入と云ふことに成ると、小宮家幷びに娘の心は喜びの絶頂に跳り、それと共に一方の失意者中には、失望の餘り重い枕に就いた娘もあつたとの事。

斯くて大禮の成立した新郎新婦は琴瑟和合し、一家は彌榮に榮えて居たが、花に千日の紅無しと云つたやうに、人の身の幸福も百年は愚か十年も一日の如しとは行かず、この芽出度大禮の後二年目に、先代の孝衛門さまは、まだ可愛初孫の顏を見ぬのを殘多がり、四十九歳を一期として亡人の數に入つた。

その翌年の春、未亡人は兼ての念願今屆きて、可愛初孫、而も玉のやうな男の兒の顏を見て、人の世の喜びを極めたのも霎時の間、これも亦その年の秋、ばさりと落つる桐の一葉に先立つて、果敢なくも野邊一縷の烟に化つた。

良家に生れたのは幸か不幸か、幼い時から暴い風にも當てぬやうにして育てられて來た若代は、こゝに先代の後を受けて山の井家を相續し、始めて家政を宰ることには成つたが、年齢は二十五歳でも、世渡る術には未だ坊ちやま、その初々しい所に乘じて、お爲ごかしに山の井さまの生血を吸ひ初めたのは、妹の死んだ後も、その儘山の井家の臺所にぬく〳〵と巣を食つて居た先代の妾の兄、即ち當主の伯父に當る某と云ふ氏も素性も知れぬ旅者。

瞬く間に名木の精を大方吸ひ取つて、充分おのれの腹を肥やした後、行方知れず姿を隱した。

「これは脫つた！」と親類では大騷ぎ「さあ何うしやう」と兩手を開いて見た所で、狙ひ早山深く逃げた跡！

彼奴が散々荒した跡を整理して、やつとその幾部分を取纏め、何うやら斯うやら山の井家の立行くやうにして、こゝに一段落の就いたは好いが、一家運命の齒車に食違を生じた時は、斯うも不幸の續いたものか。花の蕾の落ちたやうに、今日この際、當主の愛兒は、一夜母の乳頭を含んだ儘、これも亦亡人の數に入つた。

若き兩親の悲みは、人間の有らゆる悲哀の絶頂に達し、人々は其健康を危んだ。

陰中の陽とはこれ歟。

その翌年、また玉のやうな男の兒が生れたので、夫婦の顏には、笑の色生き返り、一家事なく、夫婦の交情も他を羨ませる程睦じく過して居た。

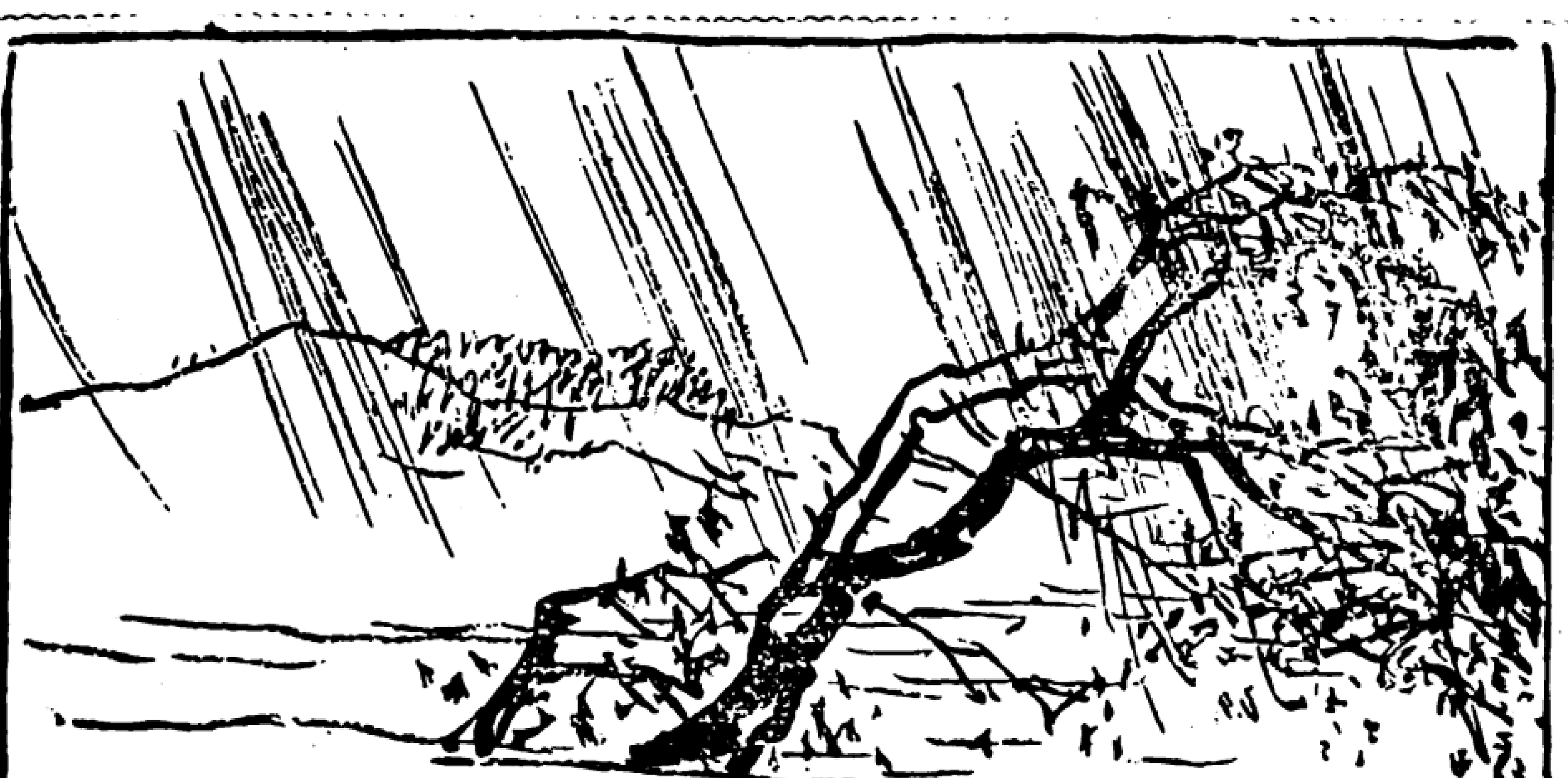
所がそれも一時の仇花！第二の愛兒が生れて間も無く、美男〳〵と世に歌はれて居た主人の顏は妙にふくれて紫色に成り、兩眼怪しき光を放つて、先づ眉の毛が脫けて來た。と思ふ間に、丁度雪達摩が日に溶けて、中から段々汚い物の現はれるやうに、これその人かとも見えぬまで、主人の容貌は崩れて來た。（つゞく）

水害につきて聞けるまゝを

山梨支部幹事　名取正代子

甲府の名家なる名取正代子夫人は、學のわざに志深く、殊に文學に秀でられ、今年の宮中歌御會始に、選歌に入られしは人々の知る所なり。こたび洪水の慘狀に就いて、この一篇を寄せられぬ。

すなほなる事水の如しとかや、入るゝ器にしたがひて、其樣々になりぬるは、殊更にいはずもあるべし。さても此世に生あるもの、一日だになくて叶はぬもののながら、一朝荒ぶる時は、又なき災をもかもすものぞかし。今年八月廿二日の夜の事なりき、折しも陰暦盂蘭盆會の十四日に當りたるを以て、遠く他國に物學に、さては何くれの用事に出て居たらんものも、祖先の墓詣せんとて、續々歸り來れるもあるべく、はた田舍のならひとて、他家に雇はれ居たる下婢丁稚がも、けふは公に主の暇を得て、父母の膝下に歸省したらんもあまたありしなるべし。又そを待ちつらん親はらからは、日來其子等が好める山海の珍味、さては何くれと取揃へて、祖先の靈祭を營むかたはら、いつくしき子等が久々にての歸省に、常の業をも休みて、此二日三日が程こそ、祖先の前に一家團欒して、何くれの物語に樂しみ極りなかるべしと、互に待ちつまたれつる日の事なりけれ。おのれも甲府なる學校に物してありけるが、今朝とく歸省したる一人にてはありけり。けふ晝過る頃より、いさゝか曇りてありしが、夕つかたよりは篠つく斗の雨降りしきり、やうやう夜のふけ行くまゝに、風さへ强うなりて、いとゞおどろおどろしう降りにふり、あれにあれつゝ、水がさ增りし河々の浪の音、いとも凄まじう耳にひゞきて、恐ろしさいはん方なければ、夜もすがらいねられず、一向に明くるをのみ待渡りつるに、やがて東の空いさゝかしらみ來ぬと思ふ程、背面の山の鳴り叫ぶらん聲の、篠つく雨の音に打ちまじりて聞ゆるに、こはたゞ事ならじと父はいち早く戸外に出てゝ見給ふに、往來の人の「今既に何がし山は崩壞して濁浪をふき上げ、勢ひ猛く押流したれば、某河の水かさとみに增りて、堤防やぶれ、やがて此方に押寄せ來るべし、とく其用意し給へ」と傳ふ。父は直ちに内に入りて、其由己等に語り聞かせ給ふや否や、見る〳〵家居の床上まで水つき來たるに、驚かるゝ事大方ならず、幼き妹などはあなた此方に逃げまよひつゝ泣き叫ぶ、さてもかくてはいと危ふければ屋根にものすべしと、父ののたまふに、母妹諸共に、手とりかはして二階より屋根にとよぢのぼるに、



やがて家居もゆら〳〵とゆらぎて、流れいなんばかりなるに、父上今は是までなり、よしやこのまゝに溺れて死なんにも、いかで諸共にと思ふからは、其覺悟せよとのたまふ。さる程に、水上よりは大なる樹どもの根こぢたるが流れ來るあり、さては家も藏も流れ來るに、そが屋根の上には。同じく親類眷族にやあらん、數珠のごと連なりて、老たるは念佛となふるもあり、若き女童などは、悲鳴をあげて救を求むる、其聲その狀のあはれさ、實に〳〵筆にも口にもえつくすべくもあらず。見る〳〵下つ瀨に押流されて、人影も小さく、よぶ聲かすかに、逆まく浪の間に見えつかくれつする程に、又も押よする大浪に、はや影も見えずなりぬ。

かゝる樣を見るにつけても、おのれら、今はた瞬時の後か、かかる憂目に死なんとすらんと思へば、悲しといはんもなか〳〵にて、たゞ運命なり、天のなすまゝに任せなんと、親子四人かたみに顏見合せて物もえいはず。とかくするうち、我家居も流れなんとするに、遙なる岸に立てる人の救ひ給はんとてか、危ふし〳〵とく此方へと招き給ふ、御心の程は嬉しけれど、此あらき瀨をとてもかくても渡りはつべきたつきもあらねば、たゞ〳〵遙に厚き御心の程を謝し奉らせつゝ、ひしと四人かき抱きあひて、流れゆく程に、忽ち家居はたふれたり。あなといふ間に母の御姿は見え給はずなりぬ、おのれと妹とは、此方の淺瀨に打よせられ、父はそれより數十間流され給ふ程に、彼方の石に頭をうたれ、此方の大木に胸をつかれなどして、辛うじてやう〳〵向ひの岸におよぎつき給ひけり。さても母上はいかにし給ひつらむと、よべどさけべど答ふるものはたゞ〳〵濁浪の物凄き音のみなりけり。かくておのれら三人は人の情に助けられて、とある避難所にたどりつきたり。さても母上はいかにかし給ひつらむ、さりとも猶下つ瀨に打あげられ、助けられてはおはせずや、もしさらば、やがてこゝにものし給ふべしと、待てども待てども音つれだになし。かくてこゝに三日五日と打過す程に、けふとなりても猶御姿の見えねば、さては母は此世にましまさぬなめりと思へば、悲しさやらむ方もなし、やがて甲府なる伯母の許にものして、あとく〵の事ども頼み聞ゆるに、快よく諾ひ給ひぬるもうれし。かくて一日二日を過ぎけるに、父は流され給ひし際に、頭に胸に數々の傷を負はせ給ひけるが、今だに痛み烈しければとて打臥し給ふ。さればおのれと妹とにて醫師の敎のまゝにみとりし奉らする程に、胸の痛みはやう〳〵怠りぬべく見えたれど、頭は日に日に重りゆくぞわりなしや。さても母上にははからざる天災に身まかり給ひ、杖とも柱とも頼みつる父上に、此上萬一の事ありてはと、神に祈り佛に願ひて、よその見るめも物ぐるほしと思はれんまでに、力の限り看護しまゐらせたれど、天のかし給はぬ命をいかにかせん、遂に七日ばかりありて後の朝、父は此世を去り給ひぬ。あゝかなしきかな。さてもかゝる憂目にあひて、世にながらへんよりは、おのれも同じ道たどらんがなか〳〵に安かりなんと思ひ亂るゝに、妹も父さなりといふ、されどかくては誰かはなき父母の冥福を祈りまゐらするものやあると思ひ返して、やう〳〵昨日けふおのれは父もとの學びやにかへり、妹をも甲府なる小學校に入學させぬ、とはわらはが日來親しめる友の一日の物語なりけり。あないとほしの姉妹や君よと、よそならず聞きしまゝを、かたはしより筆に任せてかくはものしつ。

◎希望ハ思想ノ父ナリ　シエクスピア

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一森式座椅子

特許第九〇二〇號

△本品は一個にして座椅子となり寢臺となり疊み込めば縮少して携帶に便なり
△本品の特色は織物と螺旋枕とにて身體を支ふるにより心地誠に宜しく老人、妊婦、各種病人に慰安を與ふるにあり

價格

上等エナメル塗更紗蒲團付キ　金六圓五十錢　以上各種
上等エナメル塗メリンス友禪蒲團付キ　金七圓五十錢　以上各種
最上等エナメル塗唐草蒔繪　最上等友禪縮緬蒲團付キ　金十八圓　以上各種

（本品は高輪電車停留所前◉東京日々新聞社前◉三越呉服店ニ陳列ス）

製造發賣元　東京市芝區下高輪町廿一番地東禪寺電車停留所前（電新橋三〇六五）　樂民堂
關西一手販賣　大阪市西區土佐堀裏町六十八番屋敷（電話長一八二三）　常盤商會
特約店　東京　大阪　三越呉服店

冬衣賣出　十月十三日 十四日 十五日　三日間

惠比壽講賣出　十月廿日 廿一日 廿二日　三日間

冬物新製品
ふせきれ見切反物　種々取揃置申候

日本橋區通旅籠町
下村呉服店

十月一日より

一、第十四回新柄陳列會開催
一、懸賞裾模樣圖案展覽
一、寄せ切れ見切り反物大賣出し

尚は呉服物の外各種類の日用商品を一層澤山に取揃へ何れも最新流行の物相撰み陳列仕り寫眞場及食堂をも取設け置候間御遊覽被成下候樣偏に奉願上候

「デパアトメント、ストーア」の元祖
東京日本橋駿河町
三越呉服店
（振替貯金口座參〇〇番）

本月發行の當店雜誌（時好）には新懸賞廣告あり御一讀を乞ふ

産科婦人科専門　ドクトル樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
各科診察從前の通
東京病院
芝愛宕町　電話新二六四　同二六二〇

◉婦人病専門　院長　櫻井克巳
芝明舟町十九虎門外宮樣前　電話新橋三三二四
櫻井醫院

○院長　ドクトル　木村順吉
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）
婦人科産科　木村病院

◉水原産科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達
玉寶堂
電話下谷（特九六五番 一二四四番）

移轉
大日本女學會
東京青山原宿二一〇
電話新橋一八三〇番

小兒科診察
特ニ　乳兒ノ疾患及ビ育兒法　小兒皮膚病
獨逸新式種痘　日曜午前
拙者儀久シク獨逸伯林大學ニ於テ小兒科専攻歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトル メヂチーネ　長井岩雄
東京日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

社告

今般愛讀諸姉の御便宜を計らんがため振替貯金口座一一三八一番に加入致候に就ては自今雜誌代金御送附の節は登記料金貳錢を添へ最寄郵便局へ右の番號を申入れて差出さるゝときは爲替料も郵便料金も要せず且つ途中の間違等もなく安全に送金し得る便法に候間必ず此方法にて御送金被成下度此段社告候也

明治四十年十月
愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

小菊姫

木村小舟

だん〳〵秋も末になりまして、野の草も大抵枯れ果て、花は一つも殘つて居りませんが、たゞ一つ可愛らしい野菊は、連れもなく淋しさうに、薫つて居ります。日のある内こそ、まだ暖かくも御座いますが、朝と夜とは、餘程冷たい風が舞ひ込み、どうかすると霜さへ降らうとしますので、野菊は獨りで心配して居ります。けれども根が氣象の強い花ですから、別に愚痴を云つたり、悲しがつたりする樣なことはなく、默つて大人しく咲いて居ました。

所が其近所の村の殿樣の家の一人娘に、小菊姫と云うて、至つて可愛らしい一人のお孃さんが御座いましたが、このお孃さんは、其名が小菊と仰しやるからでも御座いませうが、お庭の中に、いろ〳〵な菊を植ゑて、夫れが美しい花を開くのを見て、此上もなく喜んでゐらつしやいました。

小菊姫のお庭に咲く菊の花は、姫が丹誠の甲斐て、外のよりも早くから咲き、そして遲くまで咲き殘るので御座いますが、夫れも今ではすつかり素枯れてしまつて、眞に淋しくなりましたので、小菊姫は、毎日悲しがつて、どうかしてもつと長く花を開いて居る菊が欲しいものだと、毎日心配して居らつしやるのです。

て、そんな事が元となりましたのか、小菊姫は、急に重い病氣にかゝり、御飯は元より召し上らず、お藥のきゝ目も一向見えませんので、さアお父樣やお母樣の御心配は、大抵では御座いません。

天にも地にも、たつた一人の姫ですから、醫者と云ふ醫者を呼び、藥と云ふ藥を整へて、一日も早く全快する樣に、心づくしの甲斐も見えて、姫の重い枕は、急に上りさうにも思はれないのです。

すると丁度或る晩のこと、一人の白い衣服を着た、可愛らしい女の子が、姫の枕頭に立ち現はれ、

「お姫樣！御病氣は如何で御座いますか、私は近所の野原に居りまする、野菊と申す賤しい女で御座いますが、どうか今から貴女の看病をさせて下さい」

と、云ふ其聲に、姫は丸て甦つたの如く、勇ましく枕を上げて、

「オヽお前はあの野菊であつたか、夫れときいて私は安心した」

と姫は病氣も忘れた樣に、一晩中語り明しました、お傍の者は、あまりの事に驚いて、もしや急に御容體が惡くなるのではなからうかと、心配の程も並々ではありません。

さて夜明方になりまして、野菊は再び野原へ歸つて行きましたが、姫は全く元氣付いて、其朝からは、御飯もいつになく召し上り、昨日までの重い御病氣も、丸て夢のやうに治つて仕舞ひました、これと云ふのも、あの野原の菊が、姫の御看護をしたからだと云ふことが判りまして、殿樣は初めて御安心なされ、さう云ふ稀代な野菊ならば、早く引きとつて姫の對手にするがよい、と殿樣は御自分に、二三人の家來を連れて、野菊のある野原へ行つて御覽になりますと、成る程、他の草花は何一つ咲いて居らぬ所に、優しい菊の一本は、露にも霜にも恐れないで、立派に咲いて居りました。

殿樣は喜んで、早速根から掘り取つて、奇麗な鉢に移し植ゑ、姫の座敷に養はれましたが、野菊はこの手厚い情に感じてか、いつ迄たてども花は素枯れず、代る〳〵に新しい花を開いて、永く姫のお對手となりましたとさ。めでたし〳〵。

兒童ハ父母ノ行爲ヲ映照スル鏡ナリ　スペンサー

文苑

豐年（一等）

愛知　市川はな子

二百十日は事なう過ぎつ、低氣壓は何地去にけん。鰯雲空高う夕日に映えて、あるかなきかの風いと心地よく、穗首傾きかゝる門田の稻に戰ぎぬ。鎭守の杜に太皷の音の聞ゆるは、祭禮の設けや急ぐらん。足るを知りて貪らぬ、里の秋こそ豐なれ。

評　のどけき田園の光景見るが如し

露けき夕（二等）

山形　阿部さゐ子

「叔母さん私快くなられるでせうか」

「快くなられますとも、きツと快くなりますワ。御母樣がネ、彼子の病氣が快くなツたら、東京の女學校にやるて仰有るのだから、我慢して、速く叔母樣のやうな丈夫な身體になつて上げなさいよ。」

「ソー嬉しいのネー、私きツと快なツて見せます。そして東京に往つて、今迄の遲れた所を取り返へします。」

「どうぞさうして下さいよ、きつとネ、」と語ひしは三年前の事なりけり。あゝ而もこの月の今宵にてありけるよ。醫師よりは、疾くに命覺束なしと聞きつれど、その言の賊とならざらんとをのみ、ひたすらに、神に祈り佛に願ひてありしを、あはれ〳〵、心をこめたる祈願も、力を盡しゝ看護も、其效あらで、それより十日もたゝぬ中に、我がいとしの姪は、終になき人の數に入りぬ。そが愛らしき聲を、今猶我が耳底に遺して。

評　此文を讀みて覺えず潸然机上に涙を落しぬ

秋の夕（二等）

群馬　伏見たま子

昨夜より降り出でし大雨も霽れて、風も和ぎし夕つ方、幼子負へる里の少女等五六人、夕ばえの雲を指しながら「まあ奇麗だよ、あんな色の帶がしめたい」と一人が云へば、「あらリボンがいゝわ」といふ、かたへからは、「着物がほしいな」など思ひ〳〵に暢氣にさわぐ聲の聞ゆれば、つひ己もおりたちて、そなたの空を仰げば、黄、樺、茶、稀紅などの色々を大刷毛もて巧に彩色したらんやうに、西の方一面の雲のたゝずまひのうつくしさ、はては己までも暢氣ものゝ仲間に入り、暫時見とれて居けるに、塒にかへる鴉の一群の鳴きつれて空をわたるに、おどろきて見かへれば、早も十二日の月は山の端をはなれて、すが〳〵しき光をぞ放ちける。

評　いそしみておのがつとめしつくしなば心のどけし秋の夕も

友情（二等）

佐賀　小林かめ子

日々の看護にさぞや疲れつらん、今宵は初めて心地もよければ、暫しなりとも床につけよと、病める兄上ののたまふまゝ、一寸まどろみて目をさませば、はからずも兄上が又なき友なる人、病人の背をさすりつゝ居給ひけり。あゝいつも見舞ひ給ふこの君よ、君の内君は病みて入院せられ居るに、十二歳をかしらに三歳まで五人の御子達を睡らせおきて、今宵も斯くは訪ひ給ひしなりけり。あはれ世にたのもしきは、心あへる友にこそと、いみじう感じ入りぬ。

評　斯くも同情あつき人々の家になどて病魔のおそへるぞ

社告

本誌は時世の進歩に鑑み今回櫻井女塾長櫻井ちか子女史に請うて次號より會話に關する英文欄を設け初學の者と雖も學び得べきやう掲載すべく候右社告候也

高尾の山ふみ（承前）

伊藤つる子

又も先立ちて折からの歌など誦しつゝ思ふどち下り行くに、まてど〳〵君達の影だに御聲だにせぬに困じて、大きなる楠木の根方によりて、ざれ言いひかはして待つ。この幹の廻り何ほどかあらん、みの子の君は男三人、己は五人と云ひて試みにめぐらして見るに、一い二う三いと數へて五つと呼び給ふに、何處に居給ふ、手の先はいづこにぞと、五足六足歩き行きてやう〳〵見出てゝ、未だこゝにかといみじう笑ひぬ。五尋にては半ばにだに到らぬを女にては十の手も猶たらぬなるべし。打見ると、まとはからじ、異なるものにやと、餘り愚かしき目の力に驚かれぬ。さて此楠木よ、いつの世よりか生ひ出てけん。二葉の昔もありけんを、其世には女といふもの、かゝる歩きはせざりけんか。はたそれよりは、さきの世にて薙刀うちふり、して首なぎて、野山をかけりし女丈夫の世なりけむか、知らぬむかしを思ひやるこそゆかしけれ。道の兩側にたてつらねて、よかるべき眺めをも妨げたる杉苗寄進の數しれぬ札の字のよしあし、名字の可笑しさなど、平地のほどの心やすさに打かたらひつゝ來る程に、例の茶店につきぬ。いとゝくかへり御やしたるとよ、いざこなたへとしとねとりてゝ奥の方に据うるを、先より打やすみ居たる、家族とおぼしくて四五人つれが中の三十許りの女なるが、人の顏に穴もこそあけ、み上げ見下し、けはしき目して打まもる。見晴し臺の太陽にさらしくろみたる顏のおもてなにか惜しからむ、されど、人なにのいぶかしくてかくはするにやあらむ、今日のしるべの君のゆかりにてあるじのかく懇にするがねたましうて、いづこかわが身に劣りくるところ見いでむとての業にやあらむ、かの女心のひがみなどいふなるべし。

（つゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌　庭の秋草　大口鯛二大人選

天　吉光寺とし子

かへりゆく都の友の小車にゆひつけてやる庭の秋草

評曰　折りて與へて車に結びつけてさへ遣る園主の厚情ゆかしともゆかし實地に深く思ひ入らずしては云ひ得がたきところなりかし

地　加藤きよ子

秋草の花咲く野へと庭と見て隔ての垣もゆはぬ庵哉

評曰　住人の心ひろさもおしはかられて嬉しき庭のさまにこそ

人

花輪よしのなく蟲のやとゝなれるも嬉しきに花咲みてり庭の秋くさ

評曰　庭も籬垣も秋の野らなるといひけん花山附近の庵もしのばれてなつかしさ大方ならず

秀逸

門により霧立つ山を見つゝあれば秋草踏みて歸り來る　東京　中山由子

市に住む友に見せはや秋すゝき露に匂へる庭のけしきを　東京　中段富士子

廣からぬ庭にはあれと秋草の中には知らぬ花もさきけり　愛知　長谷いく

つくろはぬ庭は千草の花さきて我身野守の心地こそすれ　愛知　石川類子

珍らしき秋のてふさへたつね來ぬ庭の千草の花さきしより　山口　萬田眞子

野とまでは生しけられとわか庭にそゑし千草の花咲にけり　愛知　市橋幾子

つちかひし子等は都にしのふらん庭の草花咲きいてにけり　福井　寶輪貞子

をさな子の植ゑし秋草花さきて庭にちひさき野邊ぞ見えける　京都　池田美登

蟲の音をきかまほしさにのこし置し庭の秋草花さきにけり　山口　末田竹子

咲き初めし庭の草花知らぬ間につみかさしてそ子等の遊へる　岡山　坂田清子

甲

夕月の光やとして八千草の花の色ぞふ庭の面かな　北海道　吉田幹子

とふ友のあらはとぞおもふ夕まぐれ月にも匂ふにはの秋はぎ　群馬　伏島たき子

秋草の花の錦をしきはへて今日のまとゐの庭ぞたのしき　靜岡　萩原さだ子

雨そゝぐ垣内のまくず咲いてゝ人なつかしき秋の庭かな　東京　麻生敏子

垂乳根のおやに見せはや咲みちてこのうるはしき庭の草花　長崎　葛原梅香

女郎花さきて匂へと我庭の垣根さひしき秋のいろ哉　山口　末田竹子

秋の野もかくやと斗思ふ迄咲あまりたる庭の八千花　東京　土師利根子

いろ〳〵に庭の千草はさきにけり昔の榮そへて君にさゝけん　青森　三上八重子

都なる友か送りしくさ花を園生にうゑて見るぞうれしき　青森　田島愛子

もゝ草の花のにしきを打敷てみるめたのしき秋の庭哉　三重　莊司種

針仕事いそしむまとにこゑするはにはの秋草つむ子ならん　石川　廣野春子

かけひよりしたゝる水に育てられて庭に咲ったる野菊ひと本　岡山　武田須磨子

つくみはてのらなるさまもおもしろし我か住む庵の庭の秋草　愛知　山内紀子

うつし植し秋の千草の花咲て庭はさなから野となりにけり　靜岡　彦坂清子

蟲籠にいれしむしはなちける昨日今日盛になりぬ庭の八千草　熊本　日高かず子

八千草の花さきみちて洗衣ほさん方なき庭の面哉　石川　小坂夏子

名もわかぬ小草も秋は花咲きてなかめゆかしき我園生哉　京都　君子

大方にもえし若草夏の草名にあらはれて咲ける庭哉　愛知　市川はな子

おく露のいろさまざまに秋草の花のさかりの庭面白し　愛知　石川なゑ子

おこたりも中々よしや庭の面に秋の千草の花咲見れは　愛知　石川類子

おくりつる友か情の種まきてさくをまたるゝこすもすの花　愛知　湯淺とよ子

つくろはぬよもきか庭も秋くれは千草の花のさかりなりけり　京都　古川よね

うなゐ子か庭の秋草ゆひさして花の名とへと知らぬやさしさ　岡山　西村長子

置そはる夕への露そつうくしき咲のさかりの庭の秋草　岡山　山木とく

なとめ子か繪蝶とりてそうつしける今をさかりの七草の花　青森　津島たま子

朝またきにはめくりして名もしらぬ千草の花をつむそ樂しき　京都　渡邊蓉子

うつし植し野へのものとみえぬかな我庭の面の秋萩の花　鹿兒島　藤野錠

庭もせにさける百草のいろ〳〵は春の花にもゆつらさりけり　山形　阿部さゐ子

露もむすひ蟲もなくなりなつかしく庭の秋くさ花さきてより　京都　花輪余志野

世に遠き片山里の庵にも千草はあきをわすれさりけり　岡山　山崎露子

國々のことなる色をきそふなり今まさかりの庭の花園　群馬　井田しま子

かさらぬをこゝろと住めるやとなからにしきおりしく庭の草花　群馬　木暮千代子

針の手をおもはずとめて見つる哉庭の小萩に風わたるとて　東京　杉中春子

（歌員過多にして紙面限あれば乙以下略す）

俳句　秋季雜題　内藤鳴雪大人選

天　京都　山本千代子

名月に咎がなき今日のとのゐかな

地　山形　阿部さゐ子

庭に出て月まつ程や草の花

人　岡山　西村てふ子

新藁の草鞋てゑん大江山

○

秋の夜やほごして見たる枕紙　東京　中山正子

稲妻の窓もの凄し色硝子　三重　西山數子

起きてひとり源氏ひもとく夜長哉　三重　西山信子

松風の音も面白や今日の月　廣島　小出竹子

霧の間を見送る雁の行方哉　山口　末田竹子

虫のねにぬれし袂をしぼりけり　山口　末田竹子

百舌鳥のなく片山里やそばの花　山口　末田竹子

犬蓼の花も蜻蛉のとまりけり　山口　末田竹子

秋の蝿うなる障子の夕日哉　岡山　西らてふ子

駕かきの酒呑む小春かな　岡山　西村てふ子

眠くやんで眼の玉寒し秋の風　岡山　西村てふ子

虫啼きの濡衣着たる夜もあらむ　愛知　山口定子

馬洗ふ人肌寒し加茂の風　東京　鈴木榮子

一系の天子在して菊の花　青森　寺田ゝ子

夕かほの棚より出たり白き蝶　青森　寺田文子

何を見て一撃高し秋の蝉　青森　寺田文子

あざやかな秋となりけり天の河　岡山　阪出元子

秋草につかれてねむる小蝶かな　東京　宮崎醫子

山中の雑木さわかの秋の風　東京　脇紋子

萩のみちもすそからげて通りけり　東京　青木とみ子

かラスもて屋根をふきたり秋の月　愛知　吉出はつゑ

たのしともうしとも見ゆる秋の月　愛知　吉田はつゑ

戀しさに笛吹き割らん風月夜　愛知　市川はな

せゝらぎの流れもかれて落葉かな　山形　阿部さな子

秋の夜をいつか机に眠りけり　東京　青木富士子

秋風の身にしみにけり窓の月　靜岡　青木絹子

夏やせの重きや秋の露　石川　小坂夏子

秋風や若き女の亂れ髪　石川　小坂夏子

美しき日傘の通る小春哉　東京　鶴岡とも子

秋の夜や咄し上手の女客　東京　鶴岡とく子

秋の夜や琴の音洩るゝ松の窓　東京　鶴岡とく子

庭園や石磊々として草の花　東京　赤澤英子

萩の花散らしな寺の惡徒逃　東京　赤澤英子

捨てゝある庭の俵やきり〴〵す　三重　莊司種子

雁鳴て古郷の遠き日暮哉　岡山　清水梅子

小夜砧きくも身にしむ夜頃哉　岡山　清水梅子

油盡き燈火に似たり秋の山　東京　赤澤英子

白萩や露ふりこほす秋の聲　東京　肥塚みき子

見處や月と水とのはなれきは　青森　寺田歌子

紅葉吹く風や錦の裏表　青森　寺田歌子

秋立つや山の井にきく露の音　青森　寺田歌子

草の露しみ過ぎてこぼれけり　青森　吉田歌子

指南車の軋り行きけり霧の朝　青森　赤木安子

一の田の鳴子が鳴れば二の田哉　岡山　赤木榮子

地獄から風吹きけらし桐一葉　岡山　赤木榮子

戀すてふ我名立ちけり砧かな　岡山　赤木榮子

砧打つれやのひまさへつれなかり　岡山　赤木榮子

老翁が手作りなりと菊の花　三重　中山由子

萩の戸に誰がつま琴のしらべかな　東京　南部種子

秋風にさよぐ物なし出水畑　東京　秋元小菊

面白や月の下なる庭の菊　廣島　秋元小菊

月は只云ひつくされぬ光かな　岡山　天野きゑ

鳳狩り赤き處に黒男　岡山　坂山しと

鹿なくや枕に近き松の風　青森　坂田清子

虫啼くやろぢにむあんまの坊　京都　佐藤闘子

名月やれみだれ髪のはつかしさ　京都　君子

夜あけかと思へば冴えて月のかげ　岡山　君子

高き家に登れば民の砧哉　岡山　青木榮子

小雀に藝敎へ了る夜長哉　愛知　青木榮子

落栗のふもと眼はし秋更て　愛知　市橋幾子

琴の音もきこえさうなり嵯峨の秋　愛知　市橋幾子

公達の供人召してきのこ狩　愛知　市橋幾子

短文新體詩和歌俳句募集

種類	題	回	數	選者
新體詩	隨意	四	二	編輯局同人
短文	全	五	六	同
和歌	紅葉	三	五	大口鯛二
俳句	冬季雜題	六	五	内藤鳴雪

注意

一、締切十月廿日限　發表十一月五日

二、一、二、三等當選者には扇子其他の物品を贈呈すべし

三、用紙は繪葉書に限る但し新體詩、短文は普通葉書のこと

四、締切期日以後到達の分は没書となること

袴乃親王

東京日本橋區長谷川町
卸部　美濃磯本店　電話浪花二八五九番

小賣部
本郷區本郷五丁目　美濃磯本郷支店　電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町　美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町　美濃磯佐内町支店
神田區小川町　美濃磯神田支店
深川高ばし際　美濃磯支店
芝區新櫻田町　小田商店
牛込區神樂町一丁目　伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目　伊澤支店

◉根本的美顔術

文明の力は遂ひに人の顔や手足の造作にまで干渉して來た醜婦も化學の力で美人となり得る樣になつて來た歐米では婦人美容に關する學校さへ設立せられ如何にせば容姿を美しくすべきかに就て苦心研究して居る専門學者さへある美人國に生れながら家庭に於ける舊慣から恐ろしい鉛毒の混入した白粉や粗製の香油や質の惡い紅を以て僅かに裝容の具となし來つた日本の婦人も近來は多少自覺したと見えて遂に斯術の教師や著書が現はるゝ樣になつた今は又た米國からポンピアンス、マッサヂー、クリームなる一の新化粧品が輸入された

ポンピアンス、マッサヂー、クリームは今を去る十餘年前米國に發明せられ美容術中の最優等品として聲名高く同國美顔術學校の教授藥學博士ダブリユー、ステツセル氏が『美容に關する藥品器械も澤山あるが諸藥品の各特色を綜合的に有つて居る同クリームほど完全善良のものは無い』と激賞したもので第一の効力は色を根本的に白くする事である白粉のやうに上面ばかりを白くするのでなく心から白くするのである一日一回なり三日に一回なり先づ良い石鹸で顔を洗ひ乾き切らない中にクリームを充分に塗り思ひ切り手で乾燥するまで摩擦し皮膚の中の不純物が垢の樣になつて出る程摩擦した後羊皮か絹半巾の樣な軟かなもので鄭寧に拭き取るのである然すれば白粉の樣に直ぐ塗つて直ぐ白くはならぬが十日乃至二十日間後には其の効顕著るしく豐頰白色の美人となるポンピアンス、マッサヂー、クリームは確に我國の美容渇望者に非常の滿足を與ふるものと思ふ巳にサンマース夫人一家、高教授クラーク博士夫人、村井弦齋夫人、新橋藝者五六名は同品の有効を嘆賞して居る直段は大參圓小壹圓五拾錢日本代理店は東京銀座のローヤル水本舗佐々木商店です

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

可驚一分間の高等髪あらひ
東京衛生試驗所毛髪無害御試驗濟

女俳優 川上貞奴 備國みやげ

日本唯一 高等 髪あらひ

マダム

特色

少しも毛を悪くせず毛を切らず毛をフツクリとして艶を出し東髪、下げ髪には衣類をよごさず僅に一二分間殊に微温湯で洗へます論より證據皆さん洗つて御試しください

定價 鑵入凡十二回洗料金廿五錢送賃四錢
凡八回分洗料金拾五錢全國送賃四錢
見本用貳度分洗料金六錢送料二錢

東京外神田御成道田代町 電話下谷一三九九
マダム地珠堂 田中丹治
日本一手販賣
東京市内及全國各小間物店賣藥店に賣捌あり

東京市日本橋 春陽堂新刊書
二葉亭主人新著（全一冊洋裝）
實價金七拾錢 郵税金八錢

小説 其面影

▲傑作、名著の聲嘖々たり

矢野龍溪氏新著

小説 不必要

◎全一冊洋裝實價八拾錢郵税八錢◎
著者題して「不必要」と云ふ必要か、不必要か敢て讀者の精讀を望む

實用新案特許

二枚折藤井式衣桁

定價 甲 六円 乙 五円五十錢 丙 五円

東京市麹町區三番丁廿九番地
掛物箱製造販賣 藤井兵太郎

東宮妃殿下御買上ノ榮ヲ得タル化粧水ハ本品ノミ

牛乳ノ主成分ニテ製セル
乳白化粧水

レート

定價 大金五十錢 小金三十錢
内地郵送料金八錢
臺灣清韓郵送料金三十錢

東京市馬喰町一丁目 平尾贊平
大阪市南久宝寺町二丁目 平尾贊平支店
販賣店ハ全國到ル處ノ和洋小間物商及ビ賣藥店ニアリ

レートは美人ばかりが用ふる品ではないレートを用ふると美人になるのが不思議……いや不思議ではない効能があるからである

◎本品の好評を羨み一見判別し難き摸擬品續出せり平尾贊平の文字に御注意を乞ふ

登録商標

羽おり紐

定價表ハ御申越次第直ニ呈送仕候

營業窓内御入用ナレバ廣告切取御申込被下度候

東京勧業博覽會一等賞牌受領

美術造花材料

東京市日本橋區横山町壹丁目拾六番地
天野卯兵衛商店
電話浪花一六四三番
振替貯金口座四九七〇番

めりんす友仙
おもすもすりん
新形な物品々

東京日本橋区人形町通り

最上醤油

キハク印

於聖路易博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

醸造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門
信號（キハク）又（ハク）

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛
電話浪花五七七四

秋の流行は納戸と鼠です

本店 神田區表神保町一
二八五三番
出店 新橋博品館階上

色を白く皮膚を滑かにする

化粧用
フワラー水
東京 花生堂

定價 大瓶金拾五錢 小瓶金拾錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）

日本興業銀行

電話本局 一、二八〇番 三、三〇〇番 四一番 （特）三七番 一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目

合名會社 森村銀行

電話（特）本局六七三番 電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
小口當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目

株式會社 第三銀行

電話 浪花四四二 浪花四五一番

預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金手数料
其他銀行一般の業務取扱候

本誌は全國女學校の教育方針に依りて編輯す

婦人世界

十月一日發行 二卷拾一號 一冊拾五錢郵税一錢五厘 六冊郵税共金九十錢

大好評 **男女戀愛論** 村井弦齋
男女戀愛論は婦人界の大評判となり前號は三版を重ねるに至れり
◎子守は如何に選ぶべきか
◎女子事務員の實歷談
◎女學生の實歷談…パン屋開店
◎父母より受けたる教訓（後閑菊野）
◎我家の家庭演説會（加納）
◎少女奇談風船物語（好江）
◎齒痛の應急手當は如何にすべきか（ドクトル志村誠）
▲本號には千圓を讀者に分配する大懸賞募集あり
◎安產するには如何なる養生をなせば宜きか（醫學博士榊順次郎）
◎弦齋夫人辨當の料理
◎名家令夫人のお里調べ
◎小兒に肉類を與ふ注意（加藤博士）
◎我が家の子供の育て方（竹越夫人）
◎棚橋絢子刀自の面影

村井弦齋校 婦人世界臨時增刊 十月二十日發行

衣裳かゞみ

△衣裳の品質の選び方△柄の選び方△色合の選び方△模様の選び方△着こなし方△保存法△洗濯法等悉く網羅す △價拾五錢・郵税一錢五厘

實業の日本社内に新設せられたる

買物代理部

◎本社は郵便の注文にて何品にても定價の五分引にて買物の取次依頼に應ず
◎確實無比何人にても安心御依頼あれ
◎詳細十月一日發行實業の日本に掲載

東京京橋南紺屋町十二番地 實業之日本社（郵便振替貯金口座六參貳番）

カメリヤ洗粉

新製罐入 一個に付 定價金十三錢

美貌は婦人の生命なり

と或學者は唱へたり、獨り婦人のみならず美貌は人生最大の幸福にして何人も望む所……如何にせば美貌たるを得るか
カメリヤ洗粉は最近の學理に基き皮膚に特効ある劑料を配合し所謂美身術に適せる最新の化粧料なれば日やけを防ぎ色を白くし艶を增し肌を滑かならしむる特質を備ふるが故に夏期の化粧料として缺くべからざるものなり殊に婦人小兒の如き軟き肌には効顯最も著し
●美術罐入發賣……最多く價廉にして携帶上頗る便なり

發賣元 ライオン齒磨本舖 小林富次郎
日本東京、大阪、清國天津、漢口、上海

教育 子供と家庭

故學習院教授獨逸協會校長 大村仁太郎先生著

和裝全一冊 金七十錢 郵税金八錢（五號活字約三五〇頁）

卷頭の附錄 肖像!! 筆蹟!! 詳傳!!

本書は著者が折に觸れ時に應じてものせられたる言々句々生命ある血肉ある數十雄編を輯められたるものにして苟も紳士と稱し淑女と稱ふべきの人は必讀せざる可らざる近來の好著述なるを信ず。

●子供に關するもの十七
●父母に關するもの十六
●教育に關するもの十種

▲▲▲▲卷末附錄……三博士五大家追想錄▲▲▲▲

小泉又一君著 四版發賣 教育小說 藥石 上製全一冊 金七十錢 郵税八錢

福田琴月君著 新版發賣 お伽旅行 世界めぐり 伊太利半島 洋裝全一冊 金十五錢 郵税二錢

●同文館總目錄進呈（郵券四錢封入の上特に●目錄と銘記の上申込次第進呈可仕候）

東京神田表神保町 同文館

再擧行

和服も縫へる 家庭用婦人向 シンガーミシン
廉價月賦大販賣 更に特減 即金賣
無報酬出張教授（京濱）
地方の御婦人の爲めには更らに他の便法あり
▲明細書 御申込次第無代送呈す……
シンガーミシン裁縫機械會社
京橋區銀座三丁目 電話新橋三四六六
東京支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●十月一日より例年の通染織競技會開催仕候
●よせぎれ見切反物日々澤山取揃へ置き申候

東京日本橋
白木屋 吳服洋服店

●參考品として奈良朝。藤原氏。豊臣氏。德川氏。今樣
右の時代を區別し女粧の變遷を一目し得る樣標本人形を作り店内各處に陳列御縱覽に供し候

ラクダ印麝香石鹸は
高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかをりを失はざる一大特點を有す
定價 大形廿錢 小形十錢
東京日本橋區本石町三丁目
芳香藥種問屋 本舖 井上太兵衛

○色白く艶をだす最良之化粧石鹸(大形廿錢小形拾錢)
松澤ホーサン石鹸
○到る所に販賣す(にせ物)あり松澤ホーサン石鹸と御買求を乞ふ
東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舖
松澤常吉
(振替貯金四四四七番)

豫約募集
造花材料器具大割引の特典あり
郵券二錢趣意書を送る
東京、神奈川、栃木、茨城、福島、長野、群馬、一府六縣下を限りて
貳千名募集
●大日本婦人造花學會編
造花通信教授講義錄 第壹學期
十月十五日限 壹學期豫約金八拾五錢
期限後は正價金壹圓廿錢に復す
申込 市内御一報参上 地方は振替貯金口座一一一三〇に御振込被下度候
壹學期課目大要…●編纂の趣旨●總論講義●半製品論講義●技術總論講義●技術各論講義●各種造花の纏め方:梅外十四種●造花應用植物論講義●造花應用染色論講義…造花應用論講義●詳細は趣意書にあり
發行所 申込 東京市牛込區水道町五〇番地 大日本婦人造花學會 電話番町一六三四 振替口座一一一三〇
文意平易にして趣味あり座ながら造花の教授を享け無上の裨益を得

英國最新輸入
眞正無毒クイーン白粉
高等香油クイーンオイル
本舖 東京 三井花陽堂

東京勸業博覽會三等賞受領
▲正定價引なし

營業品目 特許竈各種●特許据風呂●實用暖爐●特許テンピ●特許水焜呂●鍋釜品々
日本橋區蠣殼町二丁目十五番地
神田泉町通松永町十八(電浪一一七七番)
名和本支店
振替貯金口座一〇二五四番

◎婦人科 ◎小兒科專門 午前宅診 午後往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫鷲山彌生

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎
副 醫學士 久保德太郎
副 醫學士 田代謹二
婦人科產科 每日午前診察
婦人科的外科 外國留學中
婦人生殖器病泌尿器病及內科一般火木土午後診察
婦人科產科 榊病院
●施診火木土自午後一時至二時
麹町區三番町三三(電話番町三九五)

●內科小兒科生殖器科
●新式鬱血療法 腫物、炎症部ニ應用切ラズ、痛マズ速治ス(入院隨時)
牛込區タンス町三一 電番三八八
河村生春堂醫院

耳鼻咽喉病診察
淺草向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院

助膜、胃腸、腎臟、腦病
胃能内科醫院
體格檢査(官公私立學校及檢定受驗者)
神田錦町正則英語學校前(電本二二五六)

產科婦人科小兒科
牛込區北山伏町三番地
平澤產婦人小兒科醫院

小兒病診療 宅診午前 往診午後
醫學士 內田愼太郎
淺草區福井町貳番地
●電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

耳鼻咽喉病 診療 午前八時ヨリ十時迄 午後五時ヨリ七時迄
淺草區北三筋町五九(小島町電車停留場際)
白木耳鼻咽喉科院

內山小兒科醫院
午前宅診午後往診 入院隨時
淺草區下平右衛門町十七番地 柳橋通り(電下二三六五)

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地(電話浪花六九七番)
診察時間 自午前九時 至正午十二時
內科婦人科 院主 岩佐純
內科 院長 ドクトル 岩佐新
外科 副院長 醫學士 高田壽(獨乙留學中)
外科 醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

峰內科醫院
神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトルメヂチーネ 峰秀世

腦病脊髓病
●午前 自宅 神田多町壹ノ八
●午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇 神經痛運動障害等
醫學博士 土田卯三郎

內科一般 午前宅診 午後往診
東京神田美土代町三丁目十九番地
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

產科婦人科專門
診察每日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛光舎

愛光舎販賣の牛乳は安全にして滋養豊富なること既に一般社會の認むる所に候へば續々御用命の榮を賜り度候

神田區三崎町一の六
電話本局千三百三番

登録商標 Presto

プレストあらひ粉

●色白く肌を滑らかにす

定價 袋入三錢 小罐入七錢 五錢 大罐入十五錢 大袋入十錢 特別大罐壹圓

本舗 東京牛込 山本玉川堂

陸海軍人及華族、醫藥學博士より賞狀を賜る

氣分を爽快ならしめ口中を潤し聲を美くす

ゼムは偉大なる効能、愛すべき美味、馥郁たる香氣を有し消化と毒けしに効ある良劑也

ゼムは氣候の變り目、風土異なる惡臭の場所に携帯し常用せば時候あたり、食傷、水傷を治し流行惡疫を豫防なす一等劑なり

ゼムは紳士、貴婦人、軍人、學生、實業家、旅行家の必携劑にして集合場、雜踏場、宴席、汽車、汽船中に於ては欠くべからざる要劑なり

ゼムは二三粒を含めば精神快活口中優雅佳香を放ち人座に爽快を感ぜしむ故に衛生家は談話、喫煙、飲酒、食前食後に賞用なす貴重良劑なり

藥價 七十五粒拾錢 百六十粒貳拾錢 四百廿粒五拾錢 九百粒壹圓 新意匠容器ゼム入廿錢

日本一手發賣 東京馬喰町二丁目 愛國堂 山崎榮二郎
支舗 大阪高麗橋二丁目 山崎兄弟商會
●全國到る處藥店化粧品店に有●にせ物御注意を願ふ

東京勸業博覽會二等三等賞及褒狀受領

ムスク香水

○本品は芳香の永く保つ點に於て類なき新品なり

（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）

東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹼本舗
本舗 松澤常吉
（電話本局[illegible]）

一 和琴三味線
一 胡弓諸樂器
一 附屬品一式
蓄音曲京
當店は常に各製造方の品揃を居ふせり
東京神田鍛冶町
菊屋總本店
電話本局二四四九番

東京勸業博覽會二等賞牌受領

都足袋粋乃友

◎◎◎都足袋ハ農商務省ニ出願シテ登録商標專用ヲ得タル物ナリ
都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粋士ノ歡迎ヲ受クツヽアリ
都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フコナシ

◎◎都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ履具合良好縫目破綻ノ憂ナシ
都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラザル効力ヲ有セリ

三重足袋君の益

◎三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ二足分ノ耐力ヲ有セリ
◎三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮ギリ體温ヲ保ツノ特長アリ
○本品ハ高等服装ノ際ニハ最モ必要ニシテ殊ニ交際場裡且ハ婚姻盛典ヲ擧グラル、時杯ニハ本品ニ賴ラザレバ華美ナ盛裝ニ缺點ノ譏アルヲ免カレズ貴重ナル衣服ノ裾ヲ傷フコアル可シ

龜屋

各種足袋調製所
龜屋 宮内清兵衛
東京日本橋通リ室町三丁目
電話本局一七二 略電カメヤ又カ

御注文品地方は代金引替郵便小包五足以上送料自店持にて御送呈可仕候

新製握手形組立指環

金臺白金併用
價格 六圓貳拾錢
其外御好に依り調製

新製握手形組立指環は上圖に示す如く意匠輕妙にして組み外し自在輕便にして格安最も時勢の粋を穿ちたる珍品既に業成り才士佳人の將に華燭の典を擧げんとするかの夜必ず都人士の御嗜好に投合可致と存候間幸に御一顧を給へ

貴金屬細工袋物商

東京日本橋區人形町通り
澤田治助
電話浪花二五六九番（振替貯金口座一一二七二番）

◉珍らしき新輸入品

佛蘭西新式 薄化粧料 煉白粉代用品

フエスクリーム

最も日本婦人に適應し而も皮膚の營養滑澤に實効ある

本品は水又はぬるま湯にて顔を洗ひかわきたる後小量を手のひらにて萬遍なくぬり摩擦すれば實にゑも云へぬなめらかによきつやを出し香氣よく自ら精神を爽快ならしめあれを防ぎ白粉やけ又は皺のよる憂なく、又襟の汚れるとなき最も斬新良好なる薄化粧として紳士貴婦人間に高評あり

●定價 一瓶三十五錢

賣捌所は全國到る處の賣藥小間物化粧品店にあり

發賣元
東京日本橋本町二丁目
チエリーオイル本舗
高橋初次郎
（電話本局四一三番）

大校舎落成 定員一千名

入學募集

●寄宿舎定員百廿名

シンガーミシン裁縫女學院
東京市麹町區有樂町一丁目五番地

▲規則書入用の方は郵券二錢送付ありたし

大俵炭

大徳用
山出シノ儘叺入堅炭、土釜、切炭、壹俵ハ拾貫目内外入
目方ウリ
市内ハ無賃配達

戸塚商店

（電話本局三二〇八）
神田三崎川岸

冬物多數續着

正札附陳列場

中久商店

西洋小間物
帽子各種
婦人用小間物
東髮用具
内外化粧品
玩具文具

東京神田小川町通り
裏神保町一番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新流行 小間物 各種
地方ハ目録御申越次第送呈

東京神田區須田町本店
三井屋商店
電話本局二〇七六番

新橋際博品館内支店
小川町通東明館内支店
帝國五二館内支店

御半襟處
京橋銀座一丁目
木村屋

宮内省御買上ノ光榮ヲ得タリ
二共進會 銀牌受領
香油 パノール

日本發賣元 東京 平尾賛平商店

胃病良藥
太田胃散

スコット乳菓

小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ

説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳菓部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

少年少女畫報
十月號
定價金十二錢 郵稅五厘

▲少年少女の爲になる面白き事三十ばかり、何れも色刷の石版書とし、説明を附したり▲冒險のお伽話あり▲懸賞一口噺なぞく繪探しあり▲秋の長夜家庭に於いて少年少女の最もよき友となるは本誌なり

發行所 東京神田小川町四十一番地 東京社

東洋
婦人畫報
第三號 十月の卷 十月一日發行
定價金二十五錢 郵稅一錢五厘

▲御避暑中の兩内親王殿下▲御勉學中の三姫宮殿下▲久邇宮五宮殿下御肖像▲姫宮殿下の御清書▲高等女子實修學校生徒の活花と炊事▲跡見女學校裁縫と寄宿舍生▲日本女學校景況▲書齋に於ける山脇女史▲本野一郎氏家庭▲揮毫中の多田令子女史▲新婚の夫人と令嬢▲令嬢鑑▲雨宮家の庭園と廣間▲東洋英和女學校生徒▲孤兒▲赤堀割烹所卒業生▲新婚▲洋人の日本劇▲舞踏▲洗濯▲ボートランドの薔薇祭▲女子美術學校生割烹(以上畫報)

▲婦人は如何に學ぶべきや 細川男爵
▲女學校參觀記 山脇女史の教授振……記者
▲理想の保姆と幼稚園 野口幽香子▲世界最美の祭▲秋の月 秋風▲名家談片 數氏
▲鳴く虫鳴かぬ虫 宮島博士▲最新流行
▲小説お露 國木田治子▲高輪の月 遠山稻子▲北歐の夫人 嶺南▲齒を美くする法 降旗博士▲花 水野葉舟▲拾子の親 夢郷▲いと萩等

書報發行所 東京社 東京神田小川町四十一番地

宮内省御用達
最上醬油之元祖

開業二百六十三年

釀造元 下總銚子町 濱口合名會社
振替貯金口座五〇二一番

○銀側兩蓋之部 流行婦人持
價八圓半 瑞西石入向爪アンクル
價十圓半 同總石巻上向爪アンクル
價十三圓半 同高三枚總石巻上向爪
價十四圓 米國中型付切天武向爪
價十七圓半 米國中型付上等品

○金側兩蓋之部 流行婦人持
價三十三圓 瑞西國十六金側御婦人持
價六十九圓 瑞西十六金側中形紳士持
價七十九圓 米國製十六金中形紳士持
價九十五圓 瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓 米國製18金形18紳士持

商品案内 無代進呈
東京市京橋區銀座一丁目 電話新橋(二三三一)
伊勢伊時計店

懐中要藥
清心丹

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
電話新橋五五一番

夏用の帯留

最新流行の帯留は圖の如く花に舟浪に千鳥或ひは撫子等の淡白なる彫刻品又翡翠眞珠等の良質品へ白金及金を加へて其の配色よき紐を取合せし品彩多取揃有之候

此の他四季折々御贈答品として恰好なる御髪飾及び御帯留品を始め御避暑御携行用の必用品も彩多本店に設備仕り候へば續々御用命の程偏に奉願上候

帯留之價
廿金製花舟彫刻 金貳拾圓
全撫子ダイヤ入 一八拾五圓
銀浪千鳥ト寶入 金五圓

最新流行
美術蒔繪

商品概要
金銀時計類及附屬品 眼鏡類 寶石入指環 金銀釦 装身具 洋食器 七寶花瓶 金銀製美術裝飾品 各種

營業案内 表 無代送呈
大勝堂
東京銀座通尾張町
電話新橋二二六四番

パスタムスク石鹸

東京横山町 脇田盛真堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

東京區數寄屋橋外 神田三河町 弘報堂 博報堂
京橋區南紺屋町 京橋區南鍋町 一星堂 秀逸社
日本橋區上槇町 日本橋區箱崎町 萬年社 春風舍
京橋區宗十郎町 京橋區日吉町 正路喜舍 帝國通信社
同區彌左衛門町 同區南鍋町 京華社支店 廣告社

洗用ワツセル

◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても採ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤンの如きは(拾貳号)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効てす

定價 拾貳号入 金拾五錢　六号入 金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉 ワツセル

◎此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二

英國製ワツセル日本一手販賣元　御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元

三友商會

大日本淑女學會

◎御自分のお宅に居つて高等女學校の課程を講習しやうとする方は、本會におはいりなさい

▲本會は文部省令に據り正則完全なる女學講義錄を發行します。講義の親切丁寧なことは云ふまでもありません。新式の教授法によつて獨習に最も便利な方法をとります

▲卒業は二ケ年て、會費も低廉であります

▲會員には講義錄の外『姫百合』と云ふ美くしい體裁の、利益になる女學雜誌を毎號無料で進呈いたします

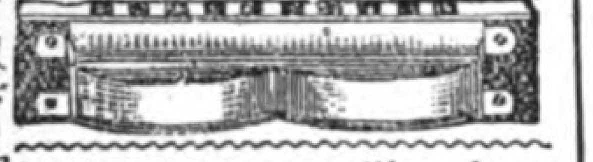
◎詳しい規則書は申越次第差上げます

第五回新學期開始 此際入會者に限り入會金全免すべし

本會の講義錄

▲大版三百頁優麗なる冊子
▲講義平易にして興味多し
▲各科講義の程度一定せり
▲各科皆聯絡し組織的なり
▲講師は專門女子教育家也
▲科外講師は博士學士卅家
▲毎號科外講話を附錄とす
▲純潔高雅の家庭小說あり
▲會員の質問は直に解答す
▲學期毎に修業證書を與ふ
▲講義錄は貳ケ年完結とす

◎東京神田駿河臺 ◎大日本淑女學會 電話本局三千四番



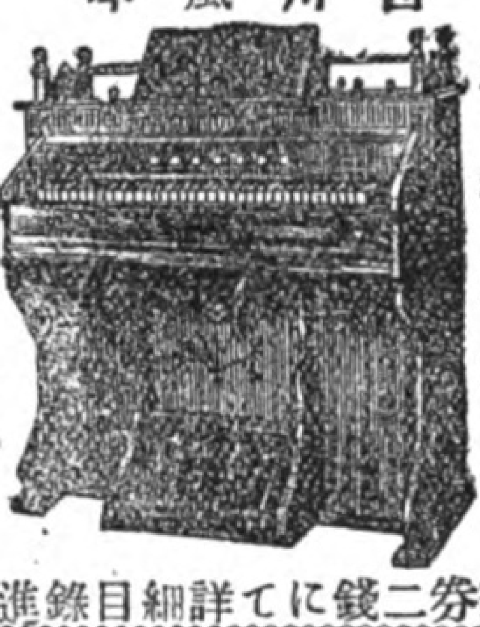
西洋(ハーモニカ)横笛

◎教育的高等玩具類 ◎軍樂隊用樂器類

和洋バイオリン　舶來手風琴

平圓盤發音器

東京博覽會壹等賞牌 西川風琴



音律正確 堅牢無比

長原春田著 明笛和樂獨習栞 正價廿五錢 郵稅四錢

郵券二錢にて詳細目錄進呈

東京銀座三丁目 十字屋樂器店

冬物續着

婦人及小供用帽子各種
小兒上着。羽根蒲團各種
ネグレット。ボアー。マフ
シャツ。手袋。高等化粧品

御便利御進物切手調進仕候

東京市京橋區銀座三丁目 三枝小賣部 電話新橋三九二七番 振替貯金九一〇〇番

三十八年一月創立

毎月壹日發兌 (外に一回 四年二月五月八月十一月 增刊)

毎號東宮妃殿下上覽

▲第三卷拾三號 十月一日發兌

毎號選評 文學士沼波先生。廣津柳浪先生 嚴谷小波先生。河井醉茗先生 佐々木信綱先生。山中古洞先生 其他編輯局諸氏

▲懸賞投書募集項目(毎月十五日締切)

◎敍事文 ◎抒情文 ◎評論文 ◎俳句
◎小說 ◎新體詩 ◎書翰文 ◎和歌
◎新歌謠 ◎短文 ◎笑話 ◎圖畫
◎文藝遊戲(其他誌友諸孃の思ひ〳〵事)

賞品 甲種(一等 拾圓 二等 三圓 三等 八拾錢 / 四等 五拾錢 五等 五拾錢)
乙種(一等 五圓 二等 壹圓 三等 六拾錢 / 四等 三拾錢 五等 二拾錢)

▲詳細の事は本誌に就て御覽を願ます▽

口繪 三宅克己先生揮毫 水彩畫(石版數度刷) 繪端書。繪手本。寫眞(光澤紙刷) 挿入

定價無比 壹冊(大判 百卅頁) 金拾錢 郵稅一錢

◎半年分(增刊共八冊)郵稅共前金八拾四錢 ◎壹年分(同十六冊)同前金壹圓六拾錢

發行所 東京市京橋區大鋸町十一 振替口座第一七二九番 (電話本局六六七番) 女子文壇社

▲賣捌所各地到る處にあり若し最寄に取次販賣店なくば發行所へ御直接御申込を乞ふ

高等滋養飲料

夏期御進物最佳

發賣元 日本葡萄酒株式會社

本店 越後國高田町
支店 東京神田柳原河岸廿四號地 電話浪花二一二番

內務省衛生試驗所檢査濟

ムスク香油

◎原料は純良なる植物油
◎芳香は「スミレ」と「ムスク」(壹瓶五拾錢)

東京本石町四丁目 ムスク香水本舗 松澤常吉

明治四十年十月廿日發行(毎月五日廿日二回)(定價金三錢一ヶ月六錢郵稅不要)(廣告料一行金六拾錢)發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 大久保高明 發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎評議員會開會　夏季休會中なりし同會は去月より定例に復し同月廿五日午後二時より開會左の役員出席會務上に付種々審議する處ありたり。

岩倉久子　井上光子　原口關子　尾崎八重子　高木富子　松平須磨子　岩佐德子　鳩山春子　早川金子　大谷加知子　高木鐐子　南郷柳子　中山幸子　山脇房子　菊池成子　三輪田眞佐子　澁谷知和子　仁杉歌子　森村菊子　關郁子

◎總裁殿下の御台臨　九月廿六日島根支部に於て開會の第一回總會へ御台臨の總裁殿下は、同月廿三日午前七時四十五分新橋驛發車にて御出發あらせられたり。當日の奉送者は左の役員及職員諸氏等なりき。

岩倉會長　谷理事　島津理事代　三井監事代　阿部　黑木　清浦　松平（須磨子）、尾崎　岩佐　鳩山　新山　堀　渡邊　片山　高木　中山　南郷　窪田　跡見　有島　仁杉　關各評議員　花岡　栗塚　川崎　松平　伊藤　溝口　宇津木　小林　東村　杉浦　荏岡　野本　飯島　秋間　各東京支部幹事佐藤會計監督以下職員數名

◎島根支部御台臨御順路の狀況　九月廿三日御出發後沿道各支部長其他職員の奉送を受けさせられ名古屋にては愛知支部長よりの水菓子、菓子折の獻上を御嘉納あらせられたり。九月廿四日福知山に至り過般の洪水被害地を御巡視遊ばされ、第廿聯隊長以下將校其他の奉迎を受けさせられ午後二時新鶴舞より御乘艦あらせらる。海上浪穏かにして、宮津へ御着、天の橋立を御覽あらせられたり。御巡覽の概況は橋立の中央に御上陸約一里半御車を召させられ、夫より御徒歩にて約半里の程、峻阪難路を平然御通過成合山上へ御登攀の上、今景を御眺望あらせられ、暫くにして御歸途に就かせらる廿五日午前七時御乘艦海上平穏にて無事午後九時島根に御上陸あらせられたり

◎島根支部總會

九月廿六日松江市に於て開催せる島根支部第一回總會は同地縣立師範學校内大運動場に式場を設け、既報の順序により舉行せり當日は天氣晴朗來會者は遠近を問はず參集其數約二千人遺族廢兵の參列せる者約五百人十月二日同上濱田高等女學校に於て開會會長代理として古市評議員臨席あり同地にては前例少き盛況を呈せり餘興として演武數組を總裁殿下の御覽に入れ奉る同地にてためし少なき盛況を呈せりといふ。

◎總裁殿下の御歸京　島根支部總會へ御台臨あらせられたる總裁殿下は同部總會を了へさせられ、本月二日午後九時十五分みけしきいとうるはしく御歸京あらせられたり。本會よりは左の諸氏御出迎ひせり。

岩倉會長　谷理事　三井監事代　東郷　阿部代　花房　細川　濱尾　宇佐川　松平　酒井　坂井　關　早川　丹羽　新山　堀　高木（鐐）　澁谷　仁杉　各評議員　沼崎　花房　岩佐　川崎　栗塚　仁科　木村　小野　勝　村田　青木　濱面　江副　福原　宇津木　大澤代　各東京支部幹事　外事務員數名

○廢兵院の近狀

戰捷の結果軍人歡迎極點に達せるに乘じ營利を目的として私立廢兵院を設立せるもの已に東京中のみにて廿四ヶ所の多きに達せるが此等は概ね廢兵の憐れなる身上を囮にして行商を營ましめ中には公設の東京廢兵院に收容さるゝ廢兵なりと稱して地方に行商し又は金錢の寄附を强ゆるものあり爲めに地方より東京廢兵院に向つて照會し來れるもの常に斷へず或は廢兵院廢止說を流布して公設事業の妨害を試むものあり爲に川崎院長の苦心當惑一方ならざるが左に東京廢兵院に於ける近狀を示さんに九月廿七日には軍醫學校學生數十名の慰問あり又た市内各牛乳商團體よりは多大の金品を寄贈し來れるのみならず廢兵等が郷里より家族を迎ふに際し、家族の收容所を廢兵院の門前に建設する事と決議したり、本會東京支部にては廢兵の家族に生業を授くるの目的を以て麴町及赤坂本所の各授産場にて足袋裁縫部を增設し更に種々の奬勵法を設けて廢兵家族の就業を歡迎し工賃并に往復の電車賃をも支給する事とし居れりと廢兵院の狀況叙上の如くなるが廢兵中には武士は食はねど高楊子といふ頑固な態度を取り不具の身の何詮術もなく赤貧洗ふが如き生活を嘆ちつゝ廢兵院に入院するを嫌惡して、愈々病勢募るに及んで止むなく入院を申込むものあるも道は餘りに開けぬ事といふべく身は既に國家の干城となりて奮戰苦鬪名譽の傷を負ひしものなれば廢兵院に收容さるゝも何とて不名譽の事やある、却つて名譽といひ得べき事なれば如懇る事に敗じ魂を出さずして遠慮なく申込むべく、されば院にても喜びて收容すべしと猶同院は月々入院者增加し來り家族と共に入院するものも多ければ同院の滿員を告ぐるは近日の事なるべしと。

◎水害救助　過般洪水にて東京、京都、大阪、埼玉、群馬、茨城、山梨、静岡、神奈川、栃木、宮城、千葉、兵庫、廣島、三府十一縣の破害廢兵遺族中生活程度乙以下にして過般の水害に依り家屋全潰若くは流失し財産を亡失せる者に對し各戸金六圓又家屋半潰并に數日間浸水し財産の大部を亡失せし者に對しては其程度に應じ四圓乃至二圓の割合を以て臨時救護金を支出することゝなり一昨日各支部長に其分配方を依頼したり

各支部の狀況

●東京支部　過般の洪水に際し支部内の水災被害者中軍人遺族廢兵者中左表の通り救護金を配當せり

郡區別	遺族廢兵救護人員	本部救護額	支部救護額	計
下谷區	六	四,〇〇〇	一八,〇〇〇	二二,〇〇〇
淺草區	四四	一六,〇〇〇	一三二,〇〇〇	一四八,〇〇〇
本所區	一九	一二,〇〇〇	七四,〇〇〇	八六,〇〇〇
深川區	一九	八,〇〇〇	六一,〇〇〇	六九,〇〇〇
荏原郡	三七	一八,〇〇〇	一六三,〇〇〇	一八一,〇〇〇
北豐島郡	二四	一二,〇〇〇	八六,〇〇〇	九八,〇〇〇
南足立郡	三七	一四,〇〇〇	一一一,〇〇〇	一二五,〇〇〇
南葛飾郡	一〇	四,〇〇〇	三四,〇〇〇	三八,〇〇〇
合計	一九六	八八,〇〇〇	六七八,〇〇〇	七六六,〇〇〇

被害者中最困難者と認め最高額を給與せし者は左の者なり

拾圓　元陸軍步兵一等卒松原與助（荏原郡矢口村字下丸子）
同　同　小宮澤次郎（同郡羽田村）
拾貳圓　同　廣瀨鉄之助（同郡矢口村古市場）
同　同　輜重輸卒大野音吉（本所區向島小梅）

●北海道支部　義損金　讓て小樽幹事部に於て募集中の函館罹災救濟金は二百四十五圓七十五錢に達し八月十六日原田、遠藤本間三幹事區役所に出頭して送金方を依頼したりと　△岩内幹事部は現在會員一千五百名に達したるを以て九月十六日岩内尋常高等小學校に於て第二回總會開催せり　○支部よりは支部長代りとして副長佐藤陽子同副長手塚トマ子主事吉田直太郎事務員小池九一同高橋正治の諸氏臨式せり當日午前十時三十分岩内支廳より總裁宮殿下の御寫影を式場に奉迎し同十一時鈴鐺を合圖に會員來賓支部長以下職員順次着席す當月の來會員は八百有余名幹事部長山田米子開會の旨を告げて御寫影の帷を撤す一同最敬禮を行ひ幹事部長令旨を奉讀し副長佐藤陽子支部長の祝詞代讀幹事部長の答辭來賓として泉祝外梁瀨兩氏の演說泉幹事其他二三の祝詞會員總代石岡フサ子の祝詞夫れより日露戰爭中盡力せる功勞者四十三名へ賞狀賞牌を授與せられ次に佐藤、手塚の兩副長に代り小池事務員より招待せる遺族廢兵に對し懇篤なる慰問の辭を述べ紀念品を配付し了て　陛下及愛國婦人會の萬歳を三唱して式を了り直に餘興として會員有志の彈琴、手踊等あり一同學校庭前に出て紀念寫眞を撮影し紀念品折詰辨當の配付ありて散會したるは午後三時なり當日の餘興として觀劇券を配付し滿場一致を以て可決したる議案は左の如し

一滯納會費を此際徵收すること
　但各町村幹事の内に一名乃至二名の徵收員を囑托するものとす
一此際入會者勸誘を爲すこと
　但列席の會員は成一人以上の入會を勸誘するものとす

因に一地方婦人會にして八百名以上の出席を觀るは近來稀に見る盛會と云ふべし

●青森支部　九月廿二日午後一時より支部樓上に於て職員會を開き職員組當番改選の件、會費收集方法の件、職員間通信機關設置の件、遺族廢兵慰問の件等を議決せり右は何れも市幹事部に關するもののみにして尚便宜函館罹災者救助慈善演藝會決算をも報告せられたり當日は西澤支部長以下數十名出席却々盛會なりき　尚ほ月當番組長等互選の結果左の如し

甲組長幹事高柳とよ子、副組長仝菅沼すみ子、乙組長仝森田たき子、副組長仝澤柳茂子、丙組長仝樋口たか子、副組長仝藤林わき子、以下組員幹事實來等抽籤配屬せり。

●宮城支部　小野村愛國婦人會　九月廿五日加美郡小野村幹事部第一總會を同村濱市部長齋藤かつ子宅に開く來賓には支部長龜井知事夫人副長石橋旅團長夫人石森理事及び滑谷郡長伊藤郡書記伊藤警察署長、隣村婦人會幹事等數十人會員着席開會を報するや委員熊海村長開會の辭及び會訓報告なし曾て戰役紀念のため授與されたる金牌（齋藤かつ子）銅牌（熊海まさの子）一條たまき、丁子みゆき子、安藤もよ子）へ配與の式あり併せて支部長及び石森理事の祝辭郡長の講話、役員總代齋藤雄俊氏の祝辭あり次て戰死病歿者の遺族に襄子を贈與し遺族總代として石垣源蔵答禮の辭あり部長來賓に向て答辭を陳べ閉會を告げたるが餘興には齋藤氏の蓄音機及び支部一行の演見物あり頗る盛會なりき

●埼玉支部　總會は十月十三日浦和中學校講堂に開會する筈なるが出席の申込は已に四千餘名に達し沿道汽車電車等は割引あれば當日迄には八千餘名に及ぶべし

●新潟支部　支部事務所は是まで縣廳知事官房にて取扱ひ居りしも今回事務所を赤十字社新潟支部内へ設けたり

●岐阜支部　客月末現在の全部に於ける現在會員數は特別會員七百八十八人、通常會員四千六百二十一人、計五千四百九人外に贊助員四百三十五人にして四百人以上の地方は岐阜稻葉、羽島、養老、安八、惠那の一市五郡なり

●靜岡支部　篤志者看護婦人會靜岡支會と協同し遺族慰問費收集の趣旨を以て九月一日より三日間靜岡市若竹座に於て慈善演藝會を開けり折節殘暑酷烈の一部に流行病發生の爲め豫定の收益を得る能はさりしも會員一同勵精の結果百廿五圓餘の純益を得たり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎鳥取支部　幹事部役員は九月廿日市會議場に於て開會中貸與理及會員増募の件に付協議する所ありたり。▲氣高郡に於ける委員の解嘱及嘱託左の如し

	解嘱	嘱託
鹿野町	原理三郎	棉田權
瑞穗村	富山房次郎	梶尾平五郎
中郷村	伊藤萬吉	山崎輝藏
砂見一ヶ村	猪口甚藏	猪口友吉

◎島根支部　郡議員會九月十五日午後愛國婦人支部事務所に於て支部總會に關し郡議員會を開き顧問松永知事、委員藤本事務官も出席協議せり因みに總裁殿下の隨行は數次既報の如く鍋島御用係、會長代理伽家男爵夫人、古市博士夫人にして濱田の總會には古市夫人會長代理として臨場する由

◎香川支部　愛國婦人會員現在數　七月末日調査に係る現在會員數の郡市別比較表を示せば左の如し

郡市	特別會員	通常會員	合計
高松	一三六	八二〇	九五六
綾歌	一四五	二、一一九	二、二六四
仲多度	二〇六	一、五二五	一、七三一
丸龜	七八	四〇七	四八五
木田	三七	一、二七四	一、三一一
小豆	二八	六九九	七二七
香川	三七	一、二一五	一、一四一
大川	四二	一、〇九九	一、一四一
三豐	一〇三	一、四五二	一、五五五
合計	八一二	一〇、六一〇	一一、四二一

▲大川郡幹部會員は當局者其他の諸氏に於て熱心勸誘の結果多數の入會者あり即ち去る八月中に於る加盟者は鶴羽村にて十名津田町二十名松原村三名石田村六名引田村九名鴫部村志度町一名三本松町三名合計五十六名なり　▲本郡幹事部長石藤澤子は夫氏退同福岡縣鞍手郡に轉ぜしを以て新任大川郡長稻葉修敬氏の夫人松子同幹事に部長を囑託せり　▲木田郡幹事部へ八月中申込を爲したるは平井村谷口いと外七名其後申出をなしたるは前田村の國方ふき子なり　▲同幹事部に於る目下の現在會員は千三百廿三名なるが步合上に於て最も會員數の多きは十川村の百九人にて最も少きは奥鹿村の廿四人なり

◎愛媛支部　救護金下賜は各戰死者遺族及廢兵への四十年度第一回救護金は千參百五拾參圓にして其人員郡別は南宇和郡十六人北宇和郡五十六人東宇和郡二十一人西宇和郡十六人喜多郡十六人伊豫郡卅二人上浮穴郡九人溫泉郡四十八人松山市廿七人越智郡卅四人周桑郡五十二人新居郡卅五人宇摩郡十三人總數三百六十七人なり

婦人會救護金交付　愛媛支部にては昨日附を以て本年第一回救護金として金千三百五十三圓を縣下の軍人遺族並に廢兵三百六十七人へ交付せり郡別左の如し

▲南宇和郡十六人▲北宇和郡五十六人▲東宇和郡廿一人▲西宇和郡十六人▲喜多郡十六人▲伊豫郡三十二人▲上浮穴郡九人▲溫泉郡四十八人▲越智郡三十四人▲周桑郡五十二人▲新居郡卅五人▲宇摩郡十三人▲松山市廿七人

◎佐賀支部　●愛國婦人會佐賀支部會員　八月末日現在左の如し

幹事部名	特別	通常	計	女子對百會員步合
藤津郡	一八	一、三三一	一、三四九	三九一
佐賀市	六一	五四七	六〇八	五四七
東松浦	一六五	一、四五五	一、六二〇	三〇四
西松浦	五七	一、〇三四	一、〇九一	二五五
神埼郡	七九	六二六	七〇五	二六九
杵島郡	八七	一、三九九	一、四八六	二〇〇
小城郡	六六	七九九	八六五	二六八
三養基	三三	五二〇	五五三	二〇四
佐賀郡	八七	九四六	一、〇三三	一〇八
合計	九二一	八、四一八	九、三三九	二〇四
前月末日現在	九一四	八、四二五	九、三三九	二〇四

◎熊本支部　先般本會より軍人遺族廢兵に對する救護金千六百七十余圓を送付し來りたれば外に支部救護金の内より四千二百五十圓を支出する事とし被救護者の調査に從事しつゝありしが既に結了せしを以て愈々各郡市幹事部に向け發送したる由なり昨年度の救護人員は三百五十八名にして其金額二千九百六十八圓なりしが本年度に及んでは前年に倍加して六百六十五名の多きに達したるを以て其調查は頗る煩雜多忙を極めたりと而して斯かる多額の救護が爲し得たるは曾來同支部役員及幹事部役員町村委員等の盡力によりて會運日に隆昌に赴き多數の會員を有するに至りたる結果に依るものにして此上ながら役員會員の奨勵協力を以て層一層盛大に赴かんこそ望ましき次第なれ尙同支部に於ては縣下の軍人遺族廢兵を優待する爲め門標を贈り又一般會員の門戸にも標札を貼して一見識別を容易ならしめんとの計畫にて目下其調製に着手せるが何分二萬一千有餘に上れる會員の事とて如何に取り急ぐも配付する迄には拾數十日を要すべく且つ本年第二期の會費徵收も最早其の期に臨めるを以て目下切符の調製に取り懸り居れる由にて是等の事務輻輳來せる爲め支部役員の如きは殆んど忙殺されん計りにて連日深更に及ぶ迄執務しつゝあり

愛國美譚

模範的幹事

大神の宮柱たゝせ給ふ、伊勢の度會郡の幹事部長に今村順子氏となんいへるあり。氏の良人が曾て群馬縣群馬郡長たりし程、氏は同郡の幹事部長なりしが其當時に於て、氏は獨力もて郡内に參千人の會員を募集し、其功尋常ならず、本會より特別有功章を贈りたり。其後氏の良人は三重縣度會郡長に轉任せられしかば、即て氏は度會郡幹事部長となれり。さるに、其後間もなく、其郡所轄の町たりし宇治山田町が市制を施きて、度會郡と分離するとはなれり。其結果宇治山田市は新たに幹事部を特設すべき事態となれりしが、市部には事に不慣の人のみにて、適當者を得ず、大に當惑してありければ、氏は氣の毒の事に思ひ、自ら諸事を助けて、市の幹事部の事業をして其緒に就かしめきとぞ。是に就いて其地の人々は云へらく、若し通常の人ならんには、分離後關係を絶ちし土地に對しては、後は野となれ主義にてあるべきを、一視同仁の雅量如何に床しき婦人なるよと、歎稱措かざりきとぞ。扨も分離後は度會郡内は、其繁華なる部を割きし事なれば、殘る處は大概峻坂難路の山村のみにて、盛壯の男子すら行きかひの艱苦をかこつなるに、氏は纖弱の身をも顧みず、幹事部事務員を從て、草鞋竹杖のいでたちにて、殘るひまもなく山村を戶毎に說きて、入會を勸誘せりきといふ。されば其効果は極めて著しく、其聲名は縣下に普く、誠に我縣愛國婦人の儀表よ實よと感ぜぬはあらずとぞ。

氏は斯の如く愛國の至誠を貫けるのみならず、其家庭の主婦としても、亦大に稱揚すべきものあり。氏の家には子女數人ありて、其が教養すら容易の事にあらざるを、更に病める老姑さへありて、長き間褥に就きて藥餌に親めり。元來此老姑は、氏が良人の令兄某氏の家にあるべき人なるが、某氏は、樺太に赴任せる爲に、其土地氣候は老人に宜しからずとて、某氏は氏を信じて世話を賴まれしなりといふ。氏が病姑に對しての介抱至孝を竭し、家にだにあらば、片時も其傍を去らず、されば姑も氏をば杖とも柱とも賴み、厠に立ちてさへも、嫁御は何れに行きしかと尋るを常とせり。さりながら、會務活動のはげしき氏は止むなくも傍を去らざるべからざるを免れず其時姑は傍の人に嫁御は何れぞと問ひければ、されば候、今日は姑御の御氣分も宜しさうに見受け、殊に今御熟睡中なれば、其間に會員募集にとて、出行き給ひぬと答ふるを聞き、姑は常々嫁の活動を妨ぐるを不本意にや思ひけん、其は能くも行かれたりと、喜色滿面にあらはれ、滿足の體なるを常とすといふ。

斯く公けにも私しにも、めでたき至誠の人の、滑き五十鈴河の流るゝ地に、任務をつくしけるぞ貴とくも、又た奇しとなりける。

一燈の光り

此程群馬縣利根郡沼田町に於て、本會講話會を開催せしに當り、本會派出員富樫眞喜子女史が熱誠溢れんばかりの講話は、深く聽者に感動を與へ、其結果として加入を申込む者數多ありたる其中に、同郡今原村農竹澤次郎と呼べる者あり、家固より豐ならず、日傭し勞賃を得て活計の資となす中にも、嚴に冗費を節し、得たる金額は僅少をながくも、常に貯蓄を怠らず、其心掛の周到なるとは、其率直勤勉と共に、比隣に稀なる者ぞと毎に噂に上りをりき。されど、片腕とも賴む妻には頓の病にて先立られしため、長男に嫁を娶りて、漸く一家をたて居けり。さる小さき活計の人なれども、女史の講話を聞きて感激せると他の人々よりも一層深く、歸宅の上直に永年苦心の光りを宿したる蓄財の中より、一時金拾五圓を出金し、嫁むま女の名義を以て、特別會員となりたる由。

あはれ人情紙よりも薄き今の世に、又得難き殊勝の人なりけり。斯る良國民を全國に有したらんには、國の富強はいづれにまでか向上せん。意を強すうとならんかし。

◎島根支部彙報

△松江御發光景　閑院宮妃殿下には出雲大社御參拜の爲め九月廿八日午前九時十分御馬車に召され御附御用係鍋島夫人御同乘申上げ先驅は保田警視外に松永顧問、松永支部長、御馬車、御一行と云ふ御列次にて藤本委員、岡崎副長、彦阪、和田、向阪の二評議員、長谷高女校長、和田警部長、藤井松江病院副院長、吉岡支部主事、三宅警部、松浦中島二顧問、梅原八束郡書記之れに隨ひ御旅館御出門簸川郡杵築に向はせらる其際本間事務官、小笠原縣技師、福岡市長、高橋助役、三谷市書記、愛國婦人會島根支部役員等は御旅館前に同會員松江高等女學校職員生徒は京店に市立各學校生徒は白潟本町、天神、堅町に師範、中學、商業の三校生徒は乃木新道に農林學校生徒は同校附近沿道に整列して何れも御見送り申上げたり沿道の各所に雲の如く集れる歡送迎者の中を玉車を進められ御無恙に午後六時簸川郡杵築町稻葉屋旅館に御着翌廿八日午前九時御參拜あらせられたり其次第は玉車を境内に進め殿下には一の鳥井内にて御下乘(其他は大鳥井前にて下乘)佐草禰宜御先導申上げ八足門にて島禰宜御大麻御鹽を修祓し次に同門内にて御手洗を進め本殿階下の御拜座にて御拜あり次に宮司は昇殿して案上より御玉串を奉りて御拜あり宮司再び案上に奉奠して降殿復命して本座に復す是にて御式を畢らせらる夫より千家宮司御先導申上げて觀祭樓に玉歩を移させられ神寶其他の御覽ありて今回臨宗者より寄附されたる境内摂附の加農砲など御覽あり殿下には一々御下問あり千家宮司は何れも委しく御說明申上げられたり

△幹事部の總會　九月三十日午前十一時四十分邇摩郡幹事部總會を大森町郡會議事堂に開く出席者會員三百廿四名其他廢兵遺族十二名にして會長代理古市夫人親辭を朗讀し片野邇摩郡幹事部長の答辭松永島根部長の祝辭(岡崎支部副長代讀)片野幹事部顧問其他の祝辭あり正午十二時頃式を畢り一同撮影をなし午餐を濟ませし上一同は午後二時發車せり出發の際烟火數發を揚げ見送盛なりき午後席を小學校に轉じ愛國尙武的講談二席あり盛會を極めたり

△鳥取縣の奉送　閑院宮妃殿下には九月卅日午前八時鳥羽丸にて當港沖合を御通過あらせらるゝに付知事代理川越警察部長は島貫警部、尾崎境警察署長其他杉谷境町長、愛國婦人會員等と共に第二迹勝丸にて御召艦日進艦迄奉送し又境埠頭には愛國婦人會員、赤十字社員、學校生徒等整列奉送し殿下には御會釋あらせられ御乘艦か境燈台沖を通過する頃より曉來濃霧に鎖されしも海上霽れ渡りて殿下日和となれり一般の拜觀者は沿岸に整列し何れも萬歲を唱えて奉送せり

人の一生は特に心志の勞苦或は肢體の勞苦に依りて果實を結ぶとあり奮勉して又奮勉す此の如きは人生なり余は年來此の如く踏み行へり天下の事皆が勇氣を傷るものなし蓋し人は一箇强猛の精神と一個正經の目的とを以て何事も成就し得らるべきなり(シエッファー)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十年十月五日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人第百三十七號附錄

評議員
伯爵夫人小笠原貞子

評議員
男爵夫人珍田岩子

東京支部幹事
加茂秀子

發行兼印刷人 山澤俊夫 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
編輯人 大久保高明
發行所 愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN